【別添】※以下は中間報告のための概要である。H25 年度刊行予定の報告書を正式なものとしたい。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」調査報告カード概要

民俗芸能学会福島調査団（平成 24 年 3 月 31 日）

○本概要は、提出された調査報告カードから、氏名や住所など個人情報を除き、必要に応じて内容の一部を整理したものである。
○福島県浜通り地方のうち相馬市と新地町の調査報告カードについては、追調査の必要性などによって、今回は提出されていない。
○本概要をもとに「調査報告カード概要まとめ」〔未定稿〕を作成し、本文 12～14 ページに記載した。

－ 目 次 －

いわき市　01 薄磯：薄井神社お潮採り ---------- 1
02 豊間：諏訪神社の獅子舞 ---------- 3
03 豊間：諏訪神社お潮採り ---------- 5
04 菅波：大國魂神社お潮採り ---------- 6
05 御宝殿：熊野神社例祭稚児田楽・風流 ---------- 7
06 末続：見渡神社の花ふき ---------- 8
07 四倉：諏訪神社お潮採り・神輿海上渡御 ---------- 9

南相馬市　01 小高区：村上の田植踊 ----------10
02 小高区：川原田の神楽 ----------11
03 小高区：南小高の神楽 ----------12
04 小高区：浦尻の神楽 ----------13
05 小高区：村上の神楽 ----------14
06 小高区：大井の神楽 ----------15
07 小高区：小谷の神楽 ----------16
08 小高区：井田川の神楽 ----------17
09 小高区：神山の神楽 ----------18
10 小高区：神山の鳥さし舞 ----------19
11 小高区：塚原の神楽 ----------20
12 小高区：片草の神楽 ----------21
13 小高区：上浦の神楽 ----------22
14 小高区：福岡の神楽 ----------23
15 小高区：大富の神楽 ----------24
16 萱浜：綿津見神社浜下り ----------25
17 萱浜：北萱浜の神楽と天狗舞 ----------26
18 原町区：泉の神楽 ----------27
19 原町区：小沢の神楽 ----------28

広野町　01 折木：八雲神社祭礼 ----------29
02 下浅見川：鹿島神社浜下り ----------30

楢葉町　01 上小塙：大滝神社浜下り ----------31
02 大谷：じゃんがら念仏踊 ----------32

富岡町　01 上手岡：麓山神社の火祭り（夏祭り）----------33
02 本岡：諏訪神社祭礼 ----------34
03 本岡：王塚神社祭礼 ----------35
04 下郡山：四十八社神社浜下り ----------36

川内村　01 上川内：西郷の神楽 ----------37
02 上川内：西郷獅子 ----------38
03 下川内：西山獅子、町獅子 ----------39

大熊町　01 熊川：熊川の稚児鹿舞 ----------41
02 夫沢：長者原のじゃんがら念仏踊 ----------43
03 相馬の民謡 ----------45

双葉町　01 郡山：正八幡神社の神楽 ----------47
02 三字（前田、水沢、目サク）の神楽 ----------49
03 上羽鳥：上羽鳥の神楽 ----------51
04 上羽鳥：上羽鳥の田植踊 ----------53

浪江町　01 高瀬：高瀬の鹿舞 ----------54
02 請戸：請戸の神楽 ----------55
03 請戸：請戸の田植踊 ----------57
05 室原：室原の田植踊 ----------59
06 棚塩：棚塩の神楽 ----------61
07 苅宿：苅宿の鹿舞・神楽 ----------62
08 権現堂：本城の神楽 ----------63
09 幾世橋：幾世橋の神楽 ----------64
10 下津島：下津島の田植踊 ----------65
11 赤宇木：赤宇木の田植踊 ----------66

葛尾村　01 野行：宝財踊り ----------67
02 葛尾：葛尾の三匹獅子 ----------68
03 落合：岩角の神楽 ----------70

飯舘村　01 比曽：比曽の田植踊・三匹獅子舞 ----------71
02 綿津見神社祭礼、山津見神社祭礼、大雷神社祭礼 ----------72

平成２３年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）

平成23年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

01）いわき市：１/７

調査日	平成24年2月13日（月）		
記入調査員氏名	山崎祐子	同行調査員氏名	小島美子
調査地	福島県いわき市平字豊間		
無形民俗文化財	名称	薄井神社お潮採り	
	所在地（被災前		
	伝承団体名	特になし（氏子）	
	聞き取り対象者	責任者、区長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

薄井神社（いわき市平字薄磯字三反田２２１）の祭礼は毎年5月3日、4日に行われているが、昨年は中止。薄井神社は海岸部ではないため津波被害はなかった。

（２）伝承団体の人数・構成員など

薄井神社の氏子は250戸であるが、津波被災をしなかった家は16戸である。被災した家は、いわき市の中央台団地の仮設住宅に移った人が多いが、親戚宅に身を寄せている方、いわき市平の民間のアパートに住んでいる方もすくなくない。区の役員も6名がなくなっている。

（３）用具・器具など

神輿：神社で保管していたため被災せず。

幟　：祭礼のときに各町内に立てる幟旗が、地元の倉庫に保管していたため、これも流されてしまった。幟旗は、薄磯の北町・上町・中町・南町の各町内に1本ずつと、神社に2本立てるので、合計6本が必要になる。幟旗は5メートルほど。　のもので、1本15万円程度。

浴衣など：祭礼に着用する揃いの浴衣（青年が着用する。２０人分）などは、それぞれの家で保管していたため、家財とともに津波で流されている。

（４）公開や伝承のための施設や場所

薄井神社のお潮採りは、塩屋崎灯台下で行う。神輿を伝馬船に乗せ、氏子の関係者が潮を汲む。薄磯では、漁船はほとんどが津波被害にあい、伝馬船も流された。伝馬船は近年、かつての習俗を復元するために、２艘作ってあった。１艘は、新造船であり、３月１３日（震災の二日後）が、進水式の予定であった。ただ、塩屋崎近辺で使用していたアワビを採るための船（採鮑船サイボウセ）が５、６艘残った。この採鮑船を使用すればお潮採り行事が可能だという。直会は、被災をまぬがれた家で予定。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等

豊間地区の個人が所有していたビデオや写真は津波によって流されてしまったが、被災していない家では所有している可能性がある。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

獅子舞の装束５組（１５人分）、笛、

（８）地域や地域住民の被災状況

氏子のほとんどが被災し、市内の中央台団地の仮設住宅や親戚宅などに住んでいる人が多い。

今後の展望
昨年より祭礼を復活したいという熱意は強く、5月の祭礼に向けて話し合いが始まっているという。 神輿はあるが、家のない更地を巡ることになる。しかし、現在であれば、まだ、更地とはいえ、家の基礎のコンクリートの部分が残っており、町内の範囲がわかる。このあと、地域の防災計画がすすんでゆくと、家や道路の場所はわからなくなり、町内の区分が平面上で不明確になることも考えられる。今、祭を復活して神輿で町内を練り歩きたいという地域の願いは、たいへん重いものであることが窺える。
支援策の希望（内容や希望金額など）
幟：各町内と神社に立てる分合計6本が必要になる。幟旗は5メートルほどのもので、1本15万円程度。 浴衣：青年会が着用する。２０人分。
その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

01）いわき市：２/７

調査日	平成24年2月13日（月）		
記入調査員氏名	山崎祐子	同行調査員氏名	小島美子
調査地	福島県いわき市平字豊間		
無形民俗文化財	名称	豊間の獅子舞（諏訪神社の獅子舞）	
	所在地（被災前	いわき市平豊間	
	伝承団体名	獅子舞保存会の組織を立ち上げている最中の被災	
	聞き取り対象者	区長、伝承者ほか	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

諏訪神社の氏子の青年たちによって、一人立ち三匹獅子舞が伝えられているが、獅子頭は神社に保管していたため、被災をまぬがれた。しかし、装束や笛は個人が保管していたため、すべて津波によって流された。

諏訪神社の８月の最後の週の土日に行われる祭礼で獅子舞が出る。本祭りである日曜日に、センドウさんと呼ばれる漁師の家を回り、庭先で獅子舞を行う。不幸のあった家は回らないが、かつては、だいたい毎年４０～５０軒の家を回っていた。近年はだいぶ少なくなったとはいえ、２７，８軒は回っていた。

獅子舞は、八幡神社の祭礼でも奉納される。八幡神社祭礼は９月１５日であり、この宵祭の夜に奉納した。近年は、９月の第二土曜日、日曜日に行っていた。

いわき市の津波は、三陸沖の地震よりもその直後の茨城県沖の地震によるものが大きかった。つまり、三陸沖の北東からではなく、茨城県沖の南東から津波が襲った。豊間地区は南東に海がひろがっており、より津波の被害が大きかった。現在、多くの家がいわき市中央台団地の仮設住宅などに避難しているのは、薄磯で述べた通りである。

どちらの祭礼も昨年は行われなかったため、獅子舞はなかった。

（２）伝承団体の人数・構成員など

諏訪神社の獅子舞は、豊間の青年会によって伝えられてきた。２０名から２５名が所属しているが、獅子舞は夏の暑い時期に行われ（後述）、舞い手が５組（１５人）ほど必要になる。年長者は笛を担当するため、青年だけではできなくなってきた。そこで、６年前から中学生にも教えるようになり、中学生と青年会によって獅子舞を続けてきた。２、３年前から、獅子舞の保存会を設立しようという動きがあり、保存会設立を目前にして東日本大震災が起きた。

（３）用具・器具など

獅子頭は神社に保管していたため無事であった。個人が保管していた装束、笛が津波により失われた。

（４）公開や伝承のための施設や場所

獅子舞は、集落の役職者や漁師の家を回って奉納していたが、集落（個人の家）が津波によって失われた。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等

豊間地区の個人が所有していたビデオや写真は津波によって流されてしまったが、被災していない家では所有している可能性がある。また、Ｕチューブに震災の前年、２０１０年８月３０日の獅子舞が投稿されている。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

獅子舞の装束５組（１５人分）、笛、

（８）地域や地域住民の被災状況

諏訪神社（いわき市平豊間下ノ内７６）は、海岸から離れているため、津波被害はなかったが、地震によって石の鳥居や狛犬が破損し、倒壊した。現在は、鳥居、狛犬ともに新しいものが立っている。東海した鳥居は、神社の入り口に、モニュメントとしてデザインされて碑文とともに据えられてある。氏子のほとんどが被災し、市内の中央台団地の仮設住宅や親戚宅などに住んでいる人が多い、

今後の展望

豊間の獅子舞を伝承している青年会は、近年、獅子舞を地域おこしの起爆剤にしたいというような意欲をもって活動を続けてきた。その矢先の被災であった。ただ、獅子頭が被災をまぬがれたため、装束や笛などを整えて、諏訪神社の祭礼を続けていきたいという強い意欲がある。

支援策の希望（内容や希望金額など）

獅子舞装束１５人分、笛は日本財団より支援が受けられる。

獅子舞の太鼓３個の破損がひどいので支援を希望。３個で１２万円。

その他

調査時には保存会はなかったが、日本財団の支援を受けるにあたり、保存会を組織した。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

01）いわき市：３/７

調査日	平成24年3月13日（月）		
記入調査員氏名	山崎祐子	同行調査員氏名	小島美子
調査地	福島県いわき市平字豊間		
無形民俗文化財	名称	諏訪神社祭礼、お潮採り	
	所在地（被災前	いわき市平豊間下ノ内７６	
	伝承団体名	特になし（氏子）	
	聞き取り対象者	区長ほか	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

「福島県民俗芸能緊急調査」の巻末リストでは「諏訪神社の浜下り（１８１）」とある。地元では「お潮採り」というので、ここでは地元の呼び名にしたがって記述する。

５月４日に諏訪神社の祭礼がおこなわれ、朝、浜辺に降りてお潮採りをしていたが、昨年は中止。この日は、諏訪神社と稲荷神社の祭礼であり、二つの神社から神輿が出る。どちらの神社も小高いところにあるため、神輿は被災しなかった。

（２）伝承団体の人数・構成員など

津波によって集落が失われたため、氏子のほとんどがいわき市中央台の仮設住宅や親戚宅に住んでいる。

（３）用具・器具など

神輿に先立つ猿田彦の面と装束一式が津波によって流失。

（４）公開や伝承のための施設や場所

お潮採りをする二見が浦は、津波被害が大きく、砂浜がほとんどなくなってしまった。神輿が降りられるような砂浜は、八幡神社をまっすぐに下ったあたりに残っている。この場所は八幡神社が９月第二土日の祭礼のときに押尾採りをする場所であり、諏訪神社の氏子も、今年の祭礼では、二見が浦ではなく、この場所でお潮採りを行いたいと考えている。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等

豊間地区の個人が所有していたビデオや写真は津波によって流されてしまったが、被災していない家では所有している可能性がある。また、Ｕチューブに震災の前年、２０１０年８月３０日の獅子舞が投稿されている。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

氏子のほとんどが被災し、市内の中央台団地の仮設住宅や親戚宅などに住んでいる人が多い、

今後の展望
５月の祭礼を行いたいという希望は強く、揃いのハッピを着て、神社の幟旗を掲げたいという。現在、豊間小学校、豊間中学校は、近隣の藤間小学校、藤間中学校を借りている。４月１日には、豊間小学校が再開することになり、準備が進んでいるが、豊間中学校は、海岸のそばにあるため再開はできず、豊間小学校に移り、豊間小・中学校として再開することになった。ただ、住まいは、豊間にない子どもがほとんどであり、スクールバスで学校に通うようになる。５月のゴールデンウィークにある諏訪神社の神輿渡御は、豊間の復興の第一歩となることと思う。
支援策の希望（内容や希望金額など）
猿田彦の面（２０万円） 猿田彦の装束一式（２０万円）
その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

01）いわき市：４/７

調査日	平成24年2月6日（月）		
記入調査員氏名	山崎祐子	同行調査員氏名	なし
調査地	福島県いわき市平菅波		
無形民俗文化財	名称	大國魂神社お潮採り	
	所在地（被災前	いわき市平菅波宮前２６	
	伝承団体名	大國魂神社氏子、海友会（豊間地区の氏子による）	
	聞き取り対象者	同社宮司、海友会関係者	

震災による被害や影響
（１）公開や実施状況 ５月４日の祭礼のときに、平菅波より神輿が出て、豊間の海岸まで御神幸をし、神輿を海中に入れてもみ、浜辺で神事を行っていたが、昨年は行わず、宮司のみが潮を汲みにきた。
（２）伝承団体の人数・構成員など 菅波は津波の被災はなかった。
（３）用具・器具など
（４）公開や伝承のための施設や場所
（５）必要な原材料等の確保
（６）映像記録や写真等の被災状況
（７）その他（公開や実施に必要な物
（８）地域や地域住民の被災状況
今後の展望
支援策の希望（内容や希望金額など）
その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

01）いわき市：５/７

調査日	平成24年3月12日（月）		
記入調査員氏名	山崎祐子	同行調査員氏名	なし
調査地	福島県いわき市錦町		
無形民俗文化財	名称	御宝殿熊野神社例祭稚児田楽・風流	
	所在地（被災前	いわき市錦町御宝殿８１	
	伝承団体名 聞き取り対象者	御宝殿熊野神社田楽保存会 同社宮司	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

宵祭７月３１日、本祭８月１日に行われる。国指定重要無形民俗文化財の稚児田楽など風流は、８月１日に行われている。昨年は、風流については例年通りに行った。ただ、８月１日の早朝に行われていた海岸でのオチョクシサマ（７歳前後の男子一名）の潮垢離は、海岸まではいかず、神社裏を流れる鮫川にて行った。オチョクシサマは、毎年、街頭する年齢の者から選んでいたが、昨年は、一昨年と同じ子どもを頼んだ。これらは、氏子の中で被害が大きくてできなかったというわけではなく、いわき市内の被害が大きく、ほかの地域への配慮もあって、海岸への渡御を自粛したということである。

（２）伝承団体の人数・構成員など

（３）用具・器具など

（４）公開や伝承のための施設や場所

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

錦町は沿岸部ではないので津波の被害はなかった。むしろ、この近辺は、いわき市の内陸部が震であった、４月１１日の余震による被害が大きかった。常磐線の特急が４月２８日にいわきまで通るようになったが、植田駅（御宝殿熊野神社の最寄駅）の近くを流れる鮫川を通過する際には、最徐行で通過した。常磐線沿線で、もっとも屋根の瓦が落ち、家屋の被害が目につくのは、この植田駅の周辺でであった。神社の社殿なども地震によっての破損は大きかった。（以上、被災状況の記述は調査員の見聞による）

今後の展望

オチョクシサマの潮浴びなども、今年は例年通りに行う方向ですすめている。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

地震による被害ではないが、獅子頭の補修が必要な状況であり、今まで使用していた獅子頭は山形県の工房で補修中。新しい獅子頭を購入し、３月１８日に東京都港区の慶応大学で行われたイベントには、新しい獅子頭を用いた。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

01）いわき市：６/７

調査日	平成24年3月16日（金）		
記入調査員氏名	山崎祐子	同行調査員氏名	小島美子
調査地	福島県いわき市久ノ浜町		
無形民俗文化財	名称	見渡神社の花ふき	
	所在地（被災前	いわき市久ノ浜町末続	
	伝承団体名		
	聞き取り対象者	宮司	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

例年、４月第一日曜日（もともとは４月８日）に行われていた。集落ごとに、紙で花とつぼみをつけた大型の花笠を作り、神輿とともに海岸へ渡御する。集落は上、中、下の３集落があり、それぞれ、ヤドが決められている。宿では、青年たちによる謡（高砂など）やいわきめでたがうたわれる。祭礼が終わると、花笠から抜いた花とつぼみを一本ずつ、各家に配る。

昨年は地震の直後であったため、行わなかった。

（２）伝承団体の人数・構成員など

（３）用具・器具など

（４）公開や伝承のための施設や場所

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

久ノ浜町は２０００戸のうち５００戸（中町などの商店街が中心）が津波による被害を受けたが、末続地区は、津波の大きな被害はほとんどなかった。

今後の展望

今年は行う予定。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

久ノ浜諏訪神社は、津波の大きな被害があった中町にある。道路をはさんで、海側の商店街はほぼ全壊も状態である。諏訪神社も床上まで浸水し、大きな被害を受けている。兼務している稲荷神社、星之宮神社見渡神社（久ノ浜町金が沢）が流失したが、昨年の夏から秋にかけて、福島県神社庁などの支援で、仮社殿が再建されている。久ノ浜は、津波とほぼ同時におきた火災によって家屋が流失、焼失、全壊という被害を受けた。また、原子力発電所からおよそ２７キロメートルという地点であるので、多くの住民が一時避難をした。そのような困難の中で、諏訪神社は久ノ浜に残り、ずっとボランティアの人々を受け入れる拠点としての活動を続けている。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

01）いわき市：７/７

調査日	平成24年3月16日（金）		
記入調査員氏名	山崎祐子	同行調査員氏名	小島美子
調査地	福島県いわき市四倉		
無形民俗文化財	名称	諏訪神社祭礼（お潮採りと神輿海上渡御）	
	所在地（被災前	いわき市四倉町字西６１	
	伝承団体名	諏訪神社	
	聞き取り対象者	宮司	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

四倉諏訪神社の祭礼は毎年５月４日に行われていた。榊を潮に浸して神輿を祓う「お潮汲みの神事」や神輿の海上渡御が行われていた。神輿４基が海に入ってもむ様子は、たいへん勇壮であり、新聞やテレビの取材も多かった。昨年は行わなかった。

（２） 伝承団体の人数・構成員など

四倉町は、６００戸のうち、１５００戸が津波によって流された。氏子も多くが被災して四倉を離れているが、いわき市内の仮設住宅などに住んでいる。

（３） 用具・器具など

神輿が被災したが、新しいものが寄付や支援などで新しく作ることができた。

（４）公開や伝承のための施設や場所

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等

津波被害にあった家の写真は流されてしまったが、神社でもっていたものは残っている。
今までの祭礼の様子がインターネットに投稿されているので、そこでも見ることができる。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

諏訪神社の本殿は高いところにあるため、津波のときには、近隣の氏子が避難してきており、１００人くらいが、ここで夜を明かした。神社の本殿は津波の被害はなかったものの、地震による建物の歪みなどの被害が出ている。なお、社務所は床下浸水、鳥居は倒壊した。参道の石段や大谷石の塀なども被害が大きかった。

四倉の漁港の復興もまだ先のことであり、津波によって流失した１５００戸も、今までの場所に住居を再建するかどうかは防災の都市計画、放射能の問題などがあって、あきらかではない。

今後の展望

今年の祭礼では、お潮汲みの神事は今までと同じには行うことはできないが、神輿を出したいと考えている。

支援策の希望（内容や希望金額など）

特になし

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：１/19

調査日	平成24年1月21日（土）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県福島市（避難先		
無形民俗文化財	名称	村上の田植踊り	
	所在地（被災前	南相馬市小高区村上	
	伝承団体名	村上田植踊り保存会	
	聞き取り対象者	事務局	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

震災以前は、貴布根神社の４月２９日の春祭りに近い日曜日に、一年おきに社前で踊っていた。また、市民俗芸能発表会や福浦小学校児童への指導（民俗芸能伝承事業）などを行っていた。

（２）伝承団体の人数・構成員など

37名で活動していたが、震災により、保存会長・副会長含め１２名の高齢の方が亡くなった。

しかし、若い踊り手が残っているので継続はできる。

（３）用具・器具など

保存会の用具・衣装は、集落センターに保管していたためすべて流出したが、福浦小学校の児童が使用していた用具（小太鼓、四つ竹、扇子、鈴、締太鼓）は福浦小学校に保管してある。

（４）公開や伝承のための施設や場所

貴布根神社（春祭り）、神社は前方が倒壊し、奥の院だけが残る。

相馬小高神社（浮舟まつり）

福浦小学校児童への民俗芸能伝承事業（学習発表会など）

（５）必要な原材料等の確保

衣装：緞子（各自保管していたためほとんどが津波により流出）、

早乙女・中打ち（江戸褄なので、購入すれば何とかなる）

弥八（万祝は、以前のものは小名浜で一着3万8千円くらいで作った。一着あれば、それをもとに作れるが・・・）

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管

（７）その他（公開や実施に必要な物）

衣装・用具すべて揃わないとできない。

神楽奉納のあとに田植踊りを行っていたため、神楽も揃わないとできない。

（８）地域や地域住民の被災状況

震災により、72世帯中62名の方が亡くなった（行方不明含む）。

現在は、村上地区のほとんどのひとが南相馬市の仮設住宅に居住している。

今後の展望
・学校の事業に出向いて、子どもたちと交流しながら行いたい。現在の４年生になる児童には教えたことがあるので、覚えていると思う。 ・PTAや小学校のOBでもいいので、一緒に立ち上げていけたらと考えている。子ども達の衣装は浴衣なので手に入れやすいと思われる。
支援策の希望（内容や希望金額など）
【衣装】江戸褄など　15人分。ただし、弥八の衣装（万祝）は特注になる。 【用具】花笠（1,500円くらい）、四つ竹（1人4個、竹があれば削って作れる）
その他
・今後のことを話し合う会合を開きたい。（3月中に村上行政区の総会を予定している） ・学校に出向き子どもたちに教えていきたい。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：２/19

調査日	平成24年1月21日（土）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市鹿島区小池		
無形民俗文化財	名称	川原田の神楽	
	所在地（被災前	小高区川原田	
	伝承団体名	川原田神楽保存会	
	聞き取り対象者	会長、区長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

H22年度に神楽保存会として復活し、H23年１月10日に天照皇大神宮春季例大祭で奉納した。H23年度は行っていない。

（２）伝承団体の人数・構成員など

８名の会員がいたが、現在では４人が南相馬市の仮設住宅、残りの会員は県外に避難中。

（３）用具・器具など

鈴、笛、衣装は津波により流失したため、南相馬市へ予算申請中である。獅子頭、幕、太鼓は流出後見つかり、氏子の避難先（南相馬市鹿島区）で保管している。獅子頭と幕は修繕が必要で、見積額は約40万である。

（４）公開や伝承のための施設や場所

天照皇大神宮で神楽を行っていたが、神社は津波により倒壊した。

（５）必要な原材料等の確保

鈴、笛、衣装などは南相馬市文化財課に予算申請中。

（６）映像記録や写真等の被災状況

映像や写真は保存会長・行政区長が保管していたが、すべて流失した。昨年、市役所に問い合わせをして、南相馬市で保管のDVDを入手した。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

神楽や神社がすべて被災したため申請中である。

（８）地域や地域住民の被災状況

津波により37戸のうち30戸が被害にあい流失した。神社も鳥居もすべて倒壊。

今後の展望

まずは、行政区としての立ち上げ、復興に向けての下準備を進める。

警戒区域が解除になり３年後くらいには復活していたい。

支援策の希望（内容や希望金額など）

５年間のうちに再生できればと思っている。南相馬市へ予算要求中である。

その他

これからの自分たちの居住先が第一と考えている。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：３/19

調査日	平成24年1月21日（土）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市鹿島区小池		
無形民俗文化財	名称	南小高の神楽	
	所在地（被災前	小高区南小高	
	伝承団体名	南小高神楽保存会	
	聞き取り対象者	会長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

毎年、１月の第２日曜に行われる貴船神社火伏祭りにあわせ神楽奉納を行っていたが、平成23年度は行っていない。

南相馬市を元気づけたいと、避難先から集まり、H24年１月22日に仮設住宅２か所（小池、寺内）で神楽奉納を行った。

（２）伝承団体の人数・構成員など

12名で活動していたが、現在５名は南相馬市内の仮設住宅に居住。７名は市外、県外に居住。

（３）用具・器具など

道具は一時立入の際、保存会長が持ち出し、現在は原町区中太田保存会にて保管。衣装は各自保管していたため小高区の自宅にあり持ち出せていない。１月22日の神楽奉納では、中太田神楽保存会から頭の衣装を借用した。

（４）公開や伝承のための施設や場所

貴船神社で神楽奉納を行っていたが、地震により神社の鳥居が崩壊した。

（５）必要な原材料等の確保

神楽の衣装、用具については被害なし。衣装が持ち出せていない。

（６）映像記録や写真等の被災状況

一部持ち出している。南相馬市博物館に保管

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

地域での被害は少ないが、全国各地に避難している状況である。

今後の展望

南相馬市の方が元気になり、励みになるのであれば、どこへでも出向き神楽舞を行いたい。

今後、後継者を育てていくためにも、子どもたちがいる場所で神楽舞をしていきたいと思う。

未来を担う子どもたちが、神楽を見て「大きくなったら自分もやってみたい」と思ってもらえるよう夢や希望を与えていきたいと思う。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

・今後のことを話し合う会合を開きたい。

・学校に出向き子どもたちに教えていきたい。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：４/19

調査日	平成24年1月28日（土）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市鹿島区北千倉		
無形民俗文化財	名称	浦尻の神楽	
	所在地（被災前	小高区浦尻	
	伝承団体名	浦尻神楽保存会	
	聞き取り対象者	会長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

以前は、毎年１月３日に綿津見神社で、また旧２月の初午に蛯沢地区の蛯沢稲荷神社で神楽奉納を行っていたが、H23年度は行っていない。

（２）伝承団体の人数・構成員など

40名の会員がいたが、津波により会計含む２名の会員が亡くなった。

（３）用具・器具など

神楽の用具・衣装については高台の公会堂に保管していたため、被害にはあわなかった。現在は、H23年度会長宅（小高区）に保管してある。

（４）公開や伝承のための施設や場所

綿津見神社は高台にあったため被害はなかったが、天王社は津波により倒壊した。

（５）必要な原材料等の確保　　衣装、用具については被害なし。

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管

（７）その他（公開や実施に必要な物）

後継者が地元に戻らない限りできない。

（８）地域や地域住民の被災状況

浦尻地区は海岸沿いの地区が壊滅状態である。家屋、道路もすべてなくなってしまっている。半数が津波被害にあっている。

保存会員は、20名ほどは南相馬市内の仮設住宅や賃貸住宅に居住している。他は県外に居住。

今後の展望　例：来年の○月には、実施しようと思う。地域の人々も期待してくれている。

若い会員がたくさんいたが、避難先で仕事に就いたため、地元に戻ってくる会員は少ないのでは･･･

浦尻の神楽は、伊勢神宮や蛯沢地区の稲荷神社以外、浦尻地区外には神楽を持ち出さないことになっているため、他の地域で神楽をやることはない。今後復活できるかは今のところ未定。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：５/19

調査日	平成24年1月28日（土）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区国見町		
無形民俗文化財	名称	村上の神楽	
	所在地（被災前	小高区村上	
	伝承団体名	村上神楽保存会	
	聞き取り対象者	会員	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

以前は毎年元日に行っていた。また２年に一度の貴布根神社の春祭りには、村上田植踊と組になり行っていた。H23年度は行わなかった。

（２）伝承団体の人数・構成員など

保存会長含む2名の団員が亡くなった。

太鼓１人、笛２人、前かぶり・後ろかぶり３～４人なので、衣装と用具が揃えば、南相馬市にいる団員で復活はできそうとのこと。

（３）用具・器具など

衣装、用具は津波によりすべて流失。

（４）公開や伝承のための施設や場所

貴布根神社は倒壊し、奥の院だけが残っている。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

衣装や用具をすべて揃えないと復活は難しい。

（８）地域や地域住民の被災状況

村上地区は壊滅状態で、72世帯中、62名が亡くなった（行方不明者含む）。

今後の展望

補助金や、支援などがあれば申請し、なんとか復活したいと思っている。

支援策の希望（内容や希望金額など）

神楽の道具、衣装すべて希望する。

【用具】獅子頭・幕、太鼓１台、笛２～３本、鈴１つは最低必要になる。

【衣装】８着

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：６/19

調査日	平成24年1月29日（日）			
記入調査員氏名	泉田和香子		同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区			
無形民俗文化財	名称	大井の神楽		
	所在地（被災前	小高区大井		
	伝承団体名	大井神楽保存会		
	聞き取り対象者	会長		

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

以前は元日と４月29日の益多嶺神社祭礼に行っていた。H23年度は行っていない。

（２）伝承団体の人数・構成員など

南相馬市に残っている会員は４名ほどで、全国各地に避難しているため現在は中断中である。

（３）用具・器具など

用具は益多嶺神社に保管。

（４）公開や伝承のための施設や場所

神社は高台にあったため被害はなかった。

（５）必要な原材料等の確保

用具については被害なし。

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

大井地区は20軒弱が津波の被害にあい、２名の方が亡くなっている。

地域住民も全国各地に避難している。

今後の展望

保存会員も全国各地に避難し、それぞれが仕事に就いたため、みんなが戻ってくるかはわからない。

大井の神楽は、今まで中断していた時期もあったため、今後復活できるかは今のところ未定である。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：7/19

調査日	平成24年1月28日（土）			
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子	
調査地	福島県南相馬市原町区			
無形民俗文化財	名称	小谷の神楽		
	所在地（被災前	小高区小谷		
	伝承団体名	小谷神楽保存会		
	聞き取り対象者	会長		

震災による被害や影響

（1） 公開や実施状況

以前は１月15日に近い日曜日と8月15日の八幡神社祭礼に行っていた。

H23年度は行っていない。

（2）伝承団体の人数・構成員など

団員の半数は南相馬市の仮設住宅や借上住宅にいる。

（3）用具・器具など

現在も、小谷集落センターに保管。

（4）公開や伝承のための施設や場所

八幡神社の鳥居は倒壊。境内や社殿は確認できてない。

（5）必要な原材料等の確保

衣装、用具については被害なし。

（6）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管。

（7）その他（公開や実施に必要な物）

（8）地域や地域住民の被災状況

半数は南相馬市内の仮設住宅や借上住宅にいるが、全国各地に避難している。

今後の展望

警戒区域が解除になり、みんなが戻れば復活できるだろう。8月15日の八幡神社例祭礼に間に合うならぜひ復活させたい。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：８/19

調査日	平成24年1月29日（日）			
記入調査員氏名	泉田和香子		同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市鹿島区			
無形民俗文化財	名称	井田川の神楽		
	所在地（被災前	小高区井田川		
	伝承団体名	井田川長寿会		
	聞き取り対象者	区長		

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

震災以前は、元旦に御祖神社で行っていた。H23年度は行っていない。

（２）伝承団体の人数・構成員など

若い後継者がいなく中断していたが、老人会のメンバー６、７名で復活したばかりだった。会長は埼玉県に避難しているため、神楽については、現在区長が引き継いでいる。

（３）用具・器具など

用具や衣装は現在、蛯沢地区の蛯沢稲荷神社に預けている。

（４）公開や伝承のための施設や場所

御祖神社は倒壊

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管

（７）その他（公開や実施に必要な物）

井田川地区が壊滅状態である。

（８）地域や地域住民の被災状況

井田川地区はほぼ全壊である。未だ水もひかず浦になったままである。20名の高齢者や、消防団の方が亡くなった。

今後の展望

老人会で復活し継続していたため、今後の見通しはたっていない。笛の人も遠くに避難しており、みんなバラバラになってしまった。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

03）南相馬市：９/19

調査日	平成24年2月21日（火）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区		
無形民俗文化財	名称	神山の神楽	
	所在地（被災前	小高区神山	
	伝承団体名	神山保存会	
	聞き取り対象者	区長	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

震災前は、毎年元日に、稲荷神社と月山神社にて行っていた。

H23年度は行っていない。

（２）伝承団体の人数・構成員など　例：現在、地元に○人がいる。高齢が多い。以前は○○人ほどで若い人が主だった。

10人くらいで活動していたが、半数は県外に避難している。若い人たちが遠くに避難している状況。

（３）用具・器具など

用具は公会堂に保管していたため、被害にはあっていない。

（４）公開や伝承のための施設や場所

稲荷神社は、鳥居が倒壊した。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

地域の被害は少ないが、住民も半数は県外に避難している。

今後の展望

警戒区域が解除になり、住民が戻ることが先決。保存会は若い人たちが多かったが、遠方に避難しているため、今後戻ってこなければ、神楽の継続は厳しいものになるだろう。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：10/19

調査日	平成24年2月21日（火）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区		
無形民俗文化財	名称	神山の鳥刺し舞	
	所在地（被災前	小高区神山	
	伝承団体名	神山民俗芸能保存会	
	聞き取り対象者	会員	

震災による被害や影響
（1） 公開や実施状況 震災前は、稲荷神社例祭、民俗芸能大会、文化祭などで行っていた。
（2）伝承団体の人数・構成員など ８人くらいで活動していたが、現在はみな避難中でバラバラである。
（3）用具・器具など 用具、衣装は各自保管している。
（4）公開や伝承のための施設や場所
（5）必要な原材料等の確保
（6）映像記録や写真等の被災状況 南相馬市博物館に保管
（7）その他（公開や実施に必要な物）
（8）地域や地域住民の被災状況
今後の展望
保存会員は、早く復活したいという気持ちが強い。出演の場があればいつでも出来る。ただ、衣装などが警戒区域内の自宅にあるため、そのときは持ち出す必要がある。
支援策の希望（内容や希望金額など）
その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：11/19

調査日	平成24年2月21日（火）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区国見町		
無形民俗文化財	名称	塚原の神楽	
	所在地（被災前	小高区塚原	
	伝承団体名	塚原神楽保存会	
	聞き取り対象者	会長	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

震災前は、１月３日と８月26日の諏訪神社祭礼に行っていた。

H23年度は行っていない。

（２）伝承団体の人数・構成員など

保存会員の半数は南相馬市にいるが、他は市外に避難している。

（３）用具・器具など

用具や衣装は塚原公会堂に保管していたが、津波により流出。頭は見つかったが塗りなおさなければ使用できない。幕、大太鼓、小太鼓も見つかったが塩水に浸かっている。これらは現在、公会堂隣の個人宅に保管している。笛や衣装は各自保管していたが、津波により流失。

（４）公開や伝承のための施設や場所　例：○神社から△浜まで御輿と獅子で行ったが、浜が水没し獅子舞ができない。

諏訪神社は高台にあったため被害は少なかったが、鳥居と狛犬が一部倒壊した。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

衣装や笛はすべて揃えなければならない。用具の修繕も必要である。

（８）地域や地域住民の被災状況

115戸の内、69戸が全壊。16名の方が亡くなった。

今後の展望

補助金や、支援などがあれば申請し、復活したいと思っている。

支援策の希望（内容や希望金額など）

獅子頭は、塗りなおせば使用できる。

大太鼓と小太鼓も塩水に浸かってはいるがなんとかなるだろう。

衣装と笛を新調しなければならない。

その他

古く貴重な印鑑が神楽と一緒に保管されていたが、津波により流失してしまった。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：12/19

調査日	平成24年2月21日（火）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区国見町		
無形民俗文化財	名称	片草の神楽	
	所在地（被災前	小高区片草	
	伝承団体名	片草青年団	
	聞き取り対象者	区長、氏子総代	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況　例：今年は行わなかった。以前は毎年○月○日に行っていた。

震災前は、元日、４月22日の小高神社春祭り、８月９日の八幡神社祭礼、12月６日の雷神社祭礼に行っていた。H23年度は行っていない。

（２）伝承団体の人数・構成員など　例：現在、地元に○人がいる。高齢が多い。以前は○○人ほどで若い人が主だった。

青年団の半数は遠方に避難している。団長は鹿島区の仮設住宅にいる。

（３）用具・器具など　例：太鼓が○台、山車が○基、破損して使えない。以前は太鼓○○台だった。

道具、衣装は集落センターに保管してある。被害はなし。

（４）公開や伝承のための施設や場所

八幡神社は被害なし。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

住民は各地に避難しているため、バラバラである。特に若い人たちが県外に避難しているため、青年団としての活動は今後どうなるかわかならい。

今後の展望

警戒区域が解除になっても、若い人は戻らないだろう。

青年団ＯＢたちを集めて、神楽を復活させたいと思っている。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

03）南相馬市：13/19

調査日	平成24年2月25日（土）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区国見町		
無形民俗文化財	名称	上浦の神楽	
	所在地（被災前	小高区上浦	
	伝承団体名 聞き取り対象者	上浦神楽保存会 区長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

震災前は、元日と熊野神社祭礼に行っていた。

H23年度は行っていない。

上浦行政区の方から、厄払いの神楽奉納をしてほしいと依頼があり、各地に避難した保存会のメンバーが集まって、今年１月８日大甕生涯学習センターにて神楽奉納を行った。

（２）伝承団体の人数・構成員など

県外に避難している会員が多い。

（３）用具・器具など

上浦公会堂に保管してあった道具を持ち出し、現在は原町区の大甕生涯学習センターにて保管している。

（４）公開や伝承のための施設や場所

熊野神社は鳥居が倒壊した。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

上浦地区は津波の被害はなかった。

50戸の内、半数は南相馬市内の仮設住宅や借上住宅にいる。他は南相馬市外にいる。

今後の展望

神楽は継続して行っていきたいと思う。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

保存会長は二本松市へ避難しているとのこと。

03）南相馬市：14/19

調査日	平成24年2月25日（土）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区		
無形民俗文化財	名称	福岡の神楽	
	所在地（被災前	小高区福岡	
	伝承団体名	福岡神楽保存会	
	聞き取り対象者	区長	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

震災前は、１月２日と３月の羽山神社祭礼に行っていた。

H23年度は行っていない。

（２）伝承団体の人数・構成員など

保存会のメンバーは若い人たちが主で活動していた。若い人たちはみんな遠方へ避難している。

（３）用具・器具など

福浦公会堂に保管してあるが、確認はとれていない。

（４）公開や伝承のための施設や場所

毎年正月に神楽奉納をしていた、羽山神社の被害はなかった。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

50世帯中、半数が全壊または半壊である。幸い死者はいなかった。半数は南相馬市にいるが、若い世帯はみな市外や県外に避難している。

今後の展望

集落さえもどうなるかわからない状況である。神楽は若い人が戻らないとやる人がいなく、今後の保存会活動も危ない状況にある。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

資料も何もなく、保存会のメンバーもわからない状態である。

03）南相馬市：15/19

調査日	平成24年2月26日（日）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区		
無形民俗文化財	名称	大富の神楽	
	所在地（被災前	小高区大富	
	伝承団体名	大富青年団	
	聞き取り対象者	青年団長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

震災前は、元日に熊野神社で行っていた。

H23年度は行っていない。

（２）伝承団体の人数・構成員など

最近では後継者不足により、消防団と青年団を兼務で行っていた。現在、南相馬市には３人の団員しか残っておらず、他は市外、県外に避難している。青年団の活動は現在休止中である。

（３）用具・器具など

獅子頭と袴は団長宅で保管している。太鼓と笛は大富公会堂で保管。

（４）公開や伝承のための施設や場所

元日に奉納していた熊野神社は、鳥居や狛犬が崩壊した。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

半数は南相馬市内の仮設住宅等にいるが、若い世帯はほとんどが遠方へ避難している。

今後の展望

警戒区域が解除になり、戻れるようになったら今後の活動を話し合っていきたい。

ずっと受け継がれてきたので、ここで途絶えることのないようにしたいとのこと。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

聞き取り対象者の青年団長も、４月から喜多方市へ行くかもしれないとのこと。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：16/19

調査日	平成24年3月10日（土）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区萱浜		
無形民俗文化財	名称	萱浜の浜下り（綿津見神社の浜下り）	
	所在地（被災前	南相馬市原町区萱浜	
	伝承団体名	萱浜行政区	
	聞き取り対象者	区長、総代	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

震災前は、4月24日に近い日曜日（綿津見神社例大祭）に浜下りを行っていた。平成22年度は行ったが、23年度は行っていない。

神楽は10年ほど前から中断している。

（２）伝承団体の人数・構成員など

（３）用具・器具など

浜下りに使う神輿（高さ90センチくらい）と堤太鼓、五色旗は津波により流失。衣装（白装束）は総代長宅に保管してある。

獅子頭と幕は集会所に保管。太鼓、笛、長持ちは津波により流失。

（４）公開や伝承のための施設や場所

綿津見神社（4月春の祭礼、7月稲祈祷、9月収穫祭）。神社は津波により倒壊。

現在は、綿津見神社があった本殿の前に、神社庁から仮社殿を建ててもらっている。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管

（７）その他（公開や実施に必要な物）

神社を元通りにしたい。

（８）地域や地域住民の被災状況

震災前は100戸あった家が現在では約20戸になった。今回76、7人の方が亡くなった。

現在は、南相馬市の仮設住宅および借上住宅に居住している。若い人たちは県外避難が多い。

今後の展望

まずは、原発問題の収束である。地域の集団移転の話もあるが一向に進んでいない。

浜下りで使う旗や神輿、太鼓などを揃えたいが資金もかなりかかるので、今年復活するのは無理だろうとのこと･･･。

支援策の希望（内容や希望金額など）

南相馬市の教育委員会へ神社や神輿の相談をしたが、難しいとのこと。

支援策があるならば、ぜひ希望したいということだった。

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：17/19

調査日	平成24年3月10日（土）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区萱浜		
無形民俗文化財	名称	北萱浜の神楽と天狗舞	
	所在地（被災前	南相馬市原町区萱浜	
	伝承団体名	北萱浜神楽愛好会	
	聞き取り対象者	区長	

震災による被害や影響

（1）公開や実施状況

震災前は、元旦に行政区や厄年などの神楽奉納を行っていた。商店街にも出向き奉納していた。また、どんと祭や民俗芸能大会などでも行っていた。

（2）伝承団体の人数・構成員など

25歳～50歳半ばまでの数十名で活動していた。南相馬市の仮設住宅や借上住宅に何人かは残っているが、若い人たちは県外に避難している。

（3）用具・器具など

神楽の道具は公会堂に保管してあったがすべて流失。400万円くらいかかるとのこと。

（4）公開や伝承のための施設や場所

稲荷神社の本殿はかろうじて大丈夫だが、鳥居や縁の下などは倒壊し、現在地元の宮大工へ見積りをお願いしているところである。神社の修繕に14万円くらいかかるとのこと。

（5）必要な原材料等の確保

（6）映像記録や写真等の被災状況

南相馬市博物館に保管

（7）その他（公開や実施に必要な物）

神楽の道具がすべて揃わないと復活もできない。

（8）地域や地域住民の被災状況

震災前は95世帯あったが津波により65世帯が全壊。津波では47名の方が犠牲になった（行方不明者9人含む）。震災関連では6人の方が犠牲になった。

今後の展望

地域のコミュニティのためにも、神楽はぜひ継続していきたいと思う。道具が揃えばすぐにでも復活できる状況だ。

支援策の希望（内容や希望金額など）

獅子頭、獅子幕、太鼓、笛、鈴、衣装などすべて希望する。400万円くらいは必要である。

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：18/19

調査日	平成24年3月20日（火）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区		
無形民俗文化財	名称	泉の神楽	
	所在地（被災前	南相馬市原町区泉	
	伝承団体名	泉神楽保存会	
	聞き取り対象者	会長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

毎年1月９日（大神宮例祭）と1月15日（出羽神社例祭）で神楽奉納を行っていた。

H23、24年度も行政区一同集まり実施した。

（２）伝承団体の人数・構成員など

保存会員は17人で活動している。現在2名の会員が遠方へ避難しているが、ほとんどが南相馬市内の仮設住宅や自宅に戻っている。

（３）用具・器具など

神楽の道具は、泉公会堂へ保管してある。津波の被害はなかった。

（４）公開や伝承のための施設や場所

出羽神社の鳥居や灯篭は倒壊した。大神宮のお宮も倒壊した。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

神楽の写真などは自宅に保管してある。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

泉地区は、津波により7名の方が犠牲になった。また88戸のうち11戸が全壊で、半壊等も含めるとたいへんな被害に遭った。

今後の展望

神楽は今後も継続して実施していきたい。

支援策の希望（内容や希望金額など）

神楽奉納を実施していた神社の倒壊が一番大きかった。修繕費用も多額になると思われるので、支援を希望したいとのこと。

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

03）南相馬市：19/19

調査日	平成24年3月20日（火）		
記入調査員氏名	泉田和香子	同行調査員氏名	松本美和子
調査地	福島県南相馬市原町区		
無形民俗文化財	名称	小沢の神楽	
	所在地（被災前	南相馬市原町区小沢	
	伝承団体名	小沢神楽保存会	
	聞き取り対象者	区長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

毎年、１月２日（虚空蔵尊例祭）に神楽奉納を行っていた。

毎年暮れに神楽の練習をしていたがH23年度は行っていない。

（２）伝承団体の人数・構成員など

保存会員は10名ほどで活動していたが、震災後休止中である。現在は全国各地に避難しているためバラバラな状態である。

（３）用具・器具など

神楽の道具一式は、小沢集落センターへ保管していたが、津波により流失した。

（獅子頭、幕、獅子頭を入れるお宮、大太鼓・小太鼓各1台、笛4～5本、衣装10着、鈴、幣束）

（４）公開や伝承のための施設や場所

虚空蔵尊は倒壊。ご神体はお寺に預けてある。虚空蔵尊への参堂も崩れていて通れない。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

津波によりすべて流失。博物館に保管してあるか？

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

小沢地区は壊滅的な被害にあった。48戸のうち高台にあった3戸だけが残った。22名の方が犠牲になり、4名の方が現在も行方不明である。

今後の展望

今まで居住していたところは危険区域に認定されたため、住める状態ではなく集団移転を希望しているが、どうなるか未だに決まっていない。集団移転をしても地元に残る人が少なくなるのではという問題もでてくる。神楽保存会としても、今後どうするか4月の総会の時に話し合わなければならない。保存会としての積立もあることから、解散はできないだろうと会員の間で話があり、出来ることなら神楽保存会を継続していきたいとのこと。

支援策の希望（内容や希望金額など）

獅子頭、幕、お宮、大太鼓、小太鼓、笛、衣装、鈴、幣束一式を揃えると、400万～500万はかかるのではないか。支援策を希望する。

その他

神楽保存会長はいわき市に家を建て居住しているとのこと。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

04）広野町：１／２

調査日	平成24年3月16日（金）		
記入調査員氏名	遠藤祝穂	同行調査員氏名	
調査地	福島県いわき市		
無形民俗文化財	名称	八雲神社祭礼	
	所在地（被災前	広野町折木	
	伝承団体名	氏子	
	聞き取り対象者	旧役員	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

祭礼は行わなかった。毎年7月第3日曜が祭礼日。平成24年は7月22日に役員だけ集まって、御神輿を出して、御祓いを受けた。

（２）伝承団体の人数・構成員など

氏子120戸くらい。

（３）用具・器具など

大体そろっている。

（４）公開や伝承のための施設や場所

神社や祭礼用具などキチンとしているので、御神輿を外に出して、形だけ行いたい。ただし海岸までは行けない。タンタンペロペロ（太鼓と笛の音）はやりたい。

（５）必要な原材料等の確保

役員等で、御神輿を社殿の外に出して、御祓いを受けるだけなので、材料等は今のところ、特に必要はないと思う。

（６）映像記録や写真等の被災状況

笛は録音テープがあるが、他の記録はあるか、どうか、よくわからない。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

公開が行われていない。

（８）地域や地域住民の被災状況

地区に戻って来ている人や仮設にいる人がまちまち。いわき市の仮設に入居している。

今後の展望

これまでのお祭りを、町に入ることもできるので、現在、避難している人たちにも呼びかけ継続していきたい。地区の人々の心のよりどころをなくしたくない。

支援策の希望（内容や希望金額など）

今のところ特にないと思う。まだ中をきちんとみていない。

その他

折木地区の亀山神社では、正月第二日曜日に「流鏑馬」がある。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

04）広野町：２/２

調査日	平成24年3月16日（金）		
記入調査員氏名	遠藤祝穂	同行調査員氏名	
調査地	福島県広野町		
無形民俗文化財	名称	鹿島神社祭礼（浜下り）	
	所在地（被災前	広野町下浅見川	
	伝承団体名		
	聞き取り対象者	氏子代表、役員	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

津波被害のため行わなかった。平成22年まで行っていた。

（２）伝承団体の人数・構成員など

氏子130戸。

（３）用具・器具など

津波被害により鳥居流失。本殿、拝殿は残ったが、位置がずれた。祭り用具は残っている。

（４）公開や伝承のための施設や場所

見通したたない。

（５）必要な原材料等の確保

見通したたない。地区全体が津波被害により家屋流失。いわき市の仮設住宅に避難入居。

（６）映像記録や写真等の被災状況

不明

（７）その他（公開や実施に必要な物）

今のところ見通しが立たない。

放射能の関係で後継者もいない状態で続けられるかどうか分からない。

（８）地域や地域住民の被災状況

津波により家屋流失。3月16日（調査実施日）現在、地区全体無人。いわき市常磐に地区全体で避難（久保、本町、松下地区24世帯）

今後の展望

氏子の意向をきいてきめるが、極力、戻って再開したい。鹿島神社は地区（村）の中心（心のよりどころ）だったので、今は、いわき市に避難しているが再興したい。

支援策の希望（内容や希望金額など）

社殿の修復や鳥居、石垣などの再建に、5、600万円くらいかかると思われるので支援してほしい。維持や管理の経費も含めて支援を希望。

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

05）楢葉町：１／２

調査日	平成24年2月27日（月）		
記入調査員氏名	遠藤祝穂	同行調査員氏名	
調査地	福島県郡山市		
無形民俗文化財	名称	大滝神社浜下り	
	所在地（被災前	楢葉町上小塙（かみこばな）	
	伝承団体名	神社	
	聞き取り対象者	宮司	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

実施無し

（２）伝承団体の人数・構成員など

旧木戸地区が氏子となっている。役員15人、世話人34人、義団（若者組のようなもの）10人

（３）用具・器具など

大きな被害はないと思われるが、良くわからない。

（４）公開や伝承のための施設や場所

海岸地区の前原地区が津波で被災している。継続は不明。

（５）必要な原材料等の確保

特になし

（６）映像記録や写真等の被災状況

役場（公民館）で保管していると思う。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

原発被害により立ち入りが出来ない。

（８）地域や地域住民の被災状況

原発事故により立入禁止となっており、今は祭礼を続行できない。

今後の展望

上記（８）の理由により祭礼はできない。ただ、義団（青年会）の人たちとは３～４回話をしていて、戻れれば今までのように祭りを行う気持ちでいる。心の中では皆がそうしたつもりでいる。

支援策の希望（内容や希望金額など）

神社の周辺の施設（鳥居、石の玉垣、狛犬など）と本殿が地震被害を受けている。修復はかなりの費用（1,000万円近く）がかかると思われる。氏子の力だけではどうにもならない。いくらかでも支援などがあれば助かる。また浜下りの安座する海岸の清神社は津波で流されている。これから、自分達の力で、どれだけの復元ができるか分からないが皆で力をあわせていきたい。地域の人たちの心の糧になるように努力していきたい。

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

05）楢葉町：２／２

調査日	平成24年3月5日（月）		
記入調査員氏名	遠藤祝穂	同行調査員氏名	
調査地	群馬県高崎市		
無形民俗文化財	名称	大谷地区じゃんがら念仏踊	
	所在地（被災前	楢葉町大谷（おおや）	
	伝承団体名	大谷じゃんがら念仏踊保存会	
	聞き取り対象者	会員	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

H23実施できなかった。原発事故による全世帯避難のため。

（２）伝承団体の人数・構成員など

保存会30名程度。高齢者で組織している。以前は青年会で行っていたが、若者不足により継続ができなくなり再結成して継続している。

（３）用具・器具など

大きな被害なし

（４）公開や伝承のための施設や場所

震災による被害はないが原発事故による避難で無人となっている状況。大谷地区の新盆をまわっていた。8月13日。22年まではやっていた。

（５）必要な原材料等の確保

そのままになっている。

（６）映像記録や写真等の被災状況

町で保管していると思う。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

大谷地区全員が避難。バラバラでどこにいるかわからない人もいる。

今後の展望

若者は今のところ戻る意思がない人が多い。念仏踊の継続はわからない。

支援策の希望（内容や希望金額など）

その他

楢葉町は会津美里町（旧本郷町）に本拠を置いている。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

06）富岡町：１／４

調査日	平成24年2月21日（火）		
記入調査員氏名	遠藤祝穂	同行調査員氏名	
調査地	福島県郡山市		
無形民俗文化財	名称	麓山神社の火祭り（夏祭り）	
	所在地（被災前	富岡町上手岡	
	伝承団体名	麓山神社氏子、総代会	
	聞き取り対象者	総代ほか	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

例大祭は年３回。春４／８。夏８／１５。秋９／１５。夏、大祭り、七十五膳、献膳あり。

（２）伝承団体の人数・構成員など

氏子世帯260戸。

（３）用具・器具など

鳥居倒壊破損。神社自体は大丈夫。津波被害はなし。内部は破損等なし。

（４）公開や伝承のための施設や場所

2月現在、警戒区域で立入できず。今年は小さいながらも、参拝、遙拝を行いたい。

（５）必要な原材料等の確保

特になし

（６）映像記録や写真等の被災状況

役場（公民館）で保管している。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

祭礼の実施については立入できす、これまでの様なことはできないと思うが、今年（24年）は小さい形で火をともしたい。

（８）地域や地域住民の被災状況

全地域の氏子が、ちりぢりに避難。

今後の展望

戻ることができれば祭りをやりたい。

支援策の希望（内容や希望金額など）

鳥居が倒壊している。修復に金がかかる。戻れたら修復したいので支援がほしい。

その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

06）富岡町：２/４

調査日	平成24年2月28日（火）		
記入調査員氏名	遠藤祝穂	同行調査員氏名	
調査地	福島県郡山市		
無形民俗文化財	名称	諏訪神社	
	所在地（被災前	富岡町大字本岡字本町西	
	伝承団体名		
	聞き取り対象者	宮司	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

祭礼一切できない。原子力発電所事故で全員避難のため。

（２）伝承団体の人数・構成員など

諏訪神社氏子、総代会。180世帯

（３）用具・器具など

津波、自身の被害はあまりないと思う。立入できないので確認出来ない。

（４）公開や伝承のための施設や場所

そのままにしてある。

（５）必要な原材料等の確保

特にないと思う。警戒区域で立ち入れないので確認のしようがない。２月現在、建物などはこわれていない。

（６）映像記録や写真等の被災状況

（７）その他（公開や実施に必要な物）

戻れれば例大祭は行いたい。

（８）地域や地域住民の被災状況

地区（氏子）全世帯が避難している。

今後の展望

原発の事故により皆が避難していて、継続もむずかしいが、戻れたら、また、これまで通り、祭りなどを行いたい。

支援策の希望（内容や希望金額など）

今のところ、よくわからない。

その他

総代長の家屋は流失した。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

06）富岡町：３／４

調査日	平成24年3月9日（金）		
記入調査員氏名	遠藤祝穂	同行調査員氏名	
調査地	福島県いわき市		
無形民俗文化財	名称	王塚神社祭礼	
	所在地（被災前	富岡町本岡字王塚	
	伝承団体名	王塚神社氏子総代会	
	聞き取り対象者	総代	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

津波被害なし。地震被害は立入が出来ないので内部は不明。たぶんたいしたことはない。

祭礼は２月８日、８月８日。

（２）伝承団体の人数・構成員など

（３）用具・器具など

警戒区域（原発事故）で立入が不能のため確認していない。たぶん大丈夫。津波被害なし。

（４）公開や伝承のための施設や場所

そのまま。

（５）必要な原材料等の確保

木で作った木刀、なぎなた等、戻れば続けたい。

（６）映像記録や写真等の被災状況

よくわからない。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

氏子全員、全部、避難している。津波による被害（被災）はない。

今後の展望

戻れれば、また祭りをしたいが、もどることはむずかしい。戻れれば保存会を作ってやっていきたい

支援策の希望（内容や希望金額など）

今のところ、わからない。

その他

総代長は郡山に避難。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

06）富岡町：４／４

調査日	平成24年3月12日（月）			
記入調査員氏名	遠藤祝穂	同行調査員氏名		
調査地	福島県福島市			
無形民俗文化財	名称	四十八社神社浜下り		
	所在地（被災前	富岡町大字下郡山		
	伝承団体名	氏子、総代会		
	聞き取り対象者	宮司		

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

毎年10月体育の日（10月10日）の前日に例大祭（御神輿お下り）を実施していた。昨年は拝殿内で小さく実施。実施帰宅時。

（２）伝承団体の人数・構成員など

氏子。約80世帯。

（３）用具・器具など

津波の被害はなかったが、地震による被害はよくわからない。立入できないため。

（４）公開や伝承のための施設や場所

今までと同じに戻れたら行いたい。神社→浜（毛萱の浜）→神社に戻る。

（５）必要な原材料等の確保

特に津波による被害等はなかった。

（６）映像記録や写真等の被災状況

公民館で保存しているかもしれない。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

氏子のうち毛萱地区の住民が津波被害、被災をうけた。下郡地区は無事。津波で死亡４～５人か、よくわからない。

今後の展望

戻れれば、地区の祭りとして行いたい。

支援策の希望（内容や希望金額など）

鳥居の被害はなかったが、狛犬など付帯物の損傷あり。修復費用の支援があればありがたい。

その他

総代長は郡山に避難中。

平成23年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

07）川内村：１／３

調査日	平成24年3月8日（木）		
記入調査員氏名	今村瑠美	同行調査員氏名	懸田弘訓
調査地	埼玉県加須市		
無形民俗文化財	名称	西郷の神楽	
	所在地（被災前	福島県双葉郡川内村大字上川内	
	伝承団体名	西郷青年団	
	聞き取り対象者	宮司	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

以前は4月29日の昭和の日と9月の敬老の日の前の日の例大祭で奉納をしていた。去年は、行えず、今年も種付けをしていないので(豊作祈願のお祭りなので)行えない。しかし、去年は宮司だけ神社に拝みにきた。

（２）伝承団体の人数・構成員など

甲組青年団は以前長男だけしか入れなかった。そして子どもへの指導も行っていた。甲組青年団はここ数年人数が少なくなったので保存会になった。2,3,4区合わせて14，5名で構成されている。団長、副団長、会計の3役がある。

子供は小学3,4年くらいから中学3年生までが踊っている。

西郷青年団はあくまでも伝統芸能のための団体で、高卒から35才までの年齢制限がある。しかし、形としては35才で退団であるが、実際は年齢制限がない。

（３）用具・器具など

用具は集会所にあり行政区長が管理している。特に被害はない。

（４）公開や伝承のための施設や場所

4月以降どれだけ人が戻るか分からないから復興祭もやるという話すら出てこない。

（５）必要な原材料等の確保

復活に必要なのは踊り子である子どもである。続けていくには大人に移行する可能性もある。
お祭りは楽しむためのものだから苦しみながら続けるのはどうなのか。

（６）映像記録や写真等の被災状況

映像記録あり。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

今後特に必要なものはない。

（８）地域や地域住民の被災状況

全戸避難というわけではないが、現在住んでいる人はいない。賠償問題があるから形上戻ることはない。また、高齢者が意外に戻りたくないという人が多い。それは、隣同士が近いこと、買い物するところも近いという利点があるからである。

話者の家も柱がずれ壁が落ち、全半壊であった。川内村で全壊はないがそれなりに崩れている。

また神社は西の灯篭が倒れ、扉が一枚とれ、地盤も下がっていた。神社に関しては保険にも入っていたので修理済みである。修理したことは神社庁の方にも報告している。社務所は大丈夫であった。

今後の展望
特にない。
支援策の希望（内容や希望金額など）
今のところなし。
その他
特になし。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

07）川内村：２／３

調査日	平成24年3月8日（木）		
記入調査員氏名	懸田弘訓	同行調査員氏名	上野智子
調査地	福島県川内村上川内		
無形民俗文化財	名称	西郷獅子	
	所在地（被災前	川内村上川内字三合田37（宮司宅）	
	伝承団体名	甲組意年団	
	聞き取り対象者	宮司	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

毎年、諏訪神社の春と秋の祭礼に行なってきた。祭日は何回かの変更ののち、現在、春は4月29日、秋は9月の敬老の日の前土曜とした。

平成23年度は原発事故による放射能汚染で獅子舞は中止し、拝礼だけにした。

（２）伝承団体の人数・構成員など

甲組青年団による。かつては長男だけが加入した。義務教育または高校を卒業して加入し、35歳で退いたが、現在、年齢制限はない。団員は14、5名である。役員には団長、副団長・会計各1名を置いている。

（２） 用具・器具など

太鼓は集会場に、獅子頭と衣装は行政区長宅で保管している。被害はなかったが、長期にそのままにしてあるため心配している。

（４）公開や伝承のための施設や場所

神社は地震により、わずかな被害はあったが修理した。屋根は銅板葺きで、雨漏りの心配はない。社務所の被害はなかったが、宮司の自宅は壁などに割れ目が生じた。

（５）必要な原材料等の確保

消耗品程度で、特にない。

（６）映像記録や写真等の被災状況

補助事業により「県指定重要無形民俗文化 川内の獅子舞」として、4組の記録保存を行った。そのビデオテープが、村教育委員会と保存会に保管されているはずであるが、所在は確認していない。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

特に必要なものはないが、獅子の踊り手が小学5、6年生から中学1、2年生であるために後継者難で、深刻な問題になっている。青年が加わることも考えている。

笛と太鼓は大人で、現在のところ心配はない。

（８）地域や地域住民の被災状況

山あいの集落のために津波の被害はないが、地震で若干見られる。

原発事故のために、全村民か避難している。除染を始め村では「帰村宣言」した。

2～3年後の全村民の帰還をめざしているが、まだ先が見えない。

今後の展望
氏子は祭礼を行ないたいとの要望が強いが、除染も思うように進まず現在のことろ未定である。
支援策の希望（内容や希望金額など）
特にない。まずは帰村を強く望んでいる。
その他
話者は、現在埼玉県加須市に避難しているが、月に1回程度、一時帰宅をする。一時帰宅の機会に訪ねた。 甲組青年団長の避難先の住所は、確認できていない。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

07）川内村：３／３

調査日	平成 24年 3月 10日（土）		
記入調査員氏名	上野　智子	同行調査員氏名	今村　留美
調査地	福島県いわき市		
無形民俗文化財	名称	西山獅子、町獅子	
	所在地（被災前	双葉郡川内村大字下川内字坂シ内272、前谷地66－乙	
	伝承団体名	不明	
	聞き取り対象者	宮司	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

H.22年5月3日に大祭を挙行した。通常は5月5日であったが、この日は田植が始まっているので、氏子さんの要望で7，8年前から5月3日に変更になった。秋も同様。9月15日に行われていたが、9月第2日曜日に行われるようになった。第3日曜日ではお彼岸に重なってしまうから。

（２）伝承団体の人数・構成員など　。

西山獅子：子どもではなく大人が踊っている。子どもの頃踊っていた人たちが大人になったから。
1人以外全員独身。すでに40歳以上になっている。獅子3人、太鼓1人、笛5人。「弓かがり」は決まっていない。

町獅子：6歳～15歳が踊る。獅子3人、太鼓1人、笛5人（おとな）。

（３）　用具・器具など

行政区の集会所の長持ちに入れて保管してある。全部被災なし。しかし、この1年は虫干しなどを行っていない。町獅子の衣装は5，6年前に新調したナイロン製であるが、西山獅子の衣装はすべて正絹である。「たてかえ」（役者の交代）の時に、神社が衣装代を払う。

（４）公開や伝承のための施設や場所

西山獅子は、神様のまえでしか踊らないと言っている。しかし、昔の資料によると、菩提寺、鎮守社、お代官の視察時など偉い人の前でも踊っていた。

（５）必要な原材料等の確保

西山獅子の笛は、以前そろえて購入した（集会所か自宅か不明）。町獅子の笛は、その家代々で持っている。父親や祖父が町獅子経験者というケースがほとんど。現在のところ不足して困っているものはない。

不足した場合、神社のほうにも奨励金として提供する用意はある。

（６）映像記録や写真等の被災状況

町獅子：役者自身の親が持っているのではないか。30年ほど前に懸田先生が、映像記録された記憶がある。

西山獅子：師匠が川内村にいるので、聞いてみないとわからない。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

避難先　西山獅子：おおしか＝新潟。あとしか＝川内。めじし＝埼玉。太鼓＝いわき。
町獅子　：おおしか＝猪苗代。

今後の展望
話者は、鹿島建設の除染作業のモデル作業に従事。川内村約3000人のうち、200名は警戒区域外の地域に居住している。警戒区域内の除染後、どれくらい戻ってくるか全くわからない状況。小学生が数名戻るという話があるが、それでは学校も成立しないので、今後様子見である。 諏訪神社は、鳥居、石灯籠2対が壊れた。保険金は100万円おりた。神社庁に報告済み。 西山獅子の人々が、神社以外の場所でも行うかどうかわからない。 町獅子はぜひやりたいと希望している。もし開催するとすれば今年の5月であるが、除染作業が当初の予定より延びて6月ごろまでかかる予定であるとのことで、かなり難しい状況である。
支援策の希望（内容や希望金額など）
町獅子は、「おおしか」役のこどもの父親が、こどもを川内に戻したくないと言っているので、上演は難しいかもしれない。川内以外の場所で開催するとしても、練習場所が必要である。
その他

平成23年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

08）大熊町：１／３

調査日	平成24年3月24日（土）		
記入調査員氏名	上野　智子	同行調査員氏名	懸田　弘訓
調査地	福島県いわき市泉町		
無形民俗文化財	名称	熊川の稚児鹿舞(くまがわのちごししまい)	
	所在地（被災前	大熊町大字熊川字八坂75	
	伝承団体名	熊川稚児鹿舞保存会	
	聞き取り対象者	会長	

震災による被害や影響

（１）　公開や実施状況

例年8月25日に踊っていた。H23年は踊っていない。

H22年8月15日の晩に「ふるさとまつり」(公民館の外)で踊った。

8月25日本祭り(熊川諏訪神社)　宵祭りの夜の踊る。　8月26日頭だけ神主さんに拝んでもらう。

S30年代までは、8月26日午前10時ごろから鹿舞を踊っていた。

1か月遅れの9月下旬に「かさぬき(なおらい)」(遍照寺)が行われる。

（２）伝承団体の人数・構成員など

会長(1名)、副会長(1名)、など踊子を含めて計21名。(小学生～70歳ぐらい)

熊川の氏子約60戸全戸が保存会会員。踊子は長男だけ。子どもも保存会会員となる。

鹿舞役の子どもの親が世話役になる。鹿役の子どもは、小学1年生に始めて4年間務める。4，5年務めたら、4人とも交代する。入れ替えのときは、夜2か月ほど毎日練習する。前の踊子の子どもが新しい子どもたちに踊りを教える。つながりができて、教育的にも、とてもよい。

（３）用具・器具など

鹿舞の太鼓1つを残して、全部流された。その残った太鼓も潮水をかぶっているので、普通には使用できないが、新しい太鼓を作るときには参考にはなる。

通常熊川の公民館に保管してあったが、その公民館が流されたので、その時一緒に流された。(公民館の流された写真を頂いた。)

衣装は個人で保管していたが、会員の自宅も皆流されたので、衣装一式もない。神輿はもともとない。必要なときは秋葉神社から借りていた。

（４）公開や伝承のための施設や場所

例年は、公民館で練習していた。

諏訪神社も全部流されたが、先日行ったときに見たら、流された土台のところに小さい祠が置いてあった(それを撮った写真を頂いた。)　福島県の神社庁が持ってきたのかもしれない。

鳥居が液状化現象で埋まっていた。

（５）必要な原材料等の確保

流出した鹿舞用の装束・用具等

鹿舞：4人分　鹿頭、太鼓、撥、装束(浴衣、モンペ、脚絆、しっぽ、足袋)

猿　：1人分　装束一式(大人用)

笛・太鼓・歌：8人分(大人用)　袴(水色)、着物(白)、足袋

（６）映像記録や写真等の被災状況

H18に映像収録したものがあったので、ダビングのために借りた。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

鹿舞の頭は、S56年当時で１つ15万円した。15万円×4＝60万円

太鼓1つ3，4万円　　3or4万円×4＝12～16万円

大太鼓1個

大人の装束8人分　子どもの装束4人分　　等

（８）地域や地域住民の被災状況

氏子60戸のうち40戸ほどは全部流出。残り約20戸は、床上浸水はない。神社を境に、その上の方は残っていた。

話者宅にあった位牌6体が全部見つかった。お墓は高台にあったので、灯篭は倒れたが、墓石自体は大丈夫であった。

今後の展望

大熊町の人口約12,000人。うち、いわき市に避難は約3000人。会津若松市に避難は、4000人。

H24年8月25日に磐梯熱海あたりで集会を予定している。お祭りをどうするかの話し合いが出る予定。神社がないので、ご神体をご分霊してもらわないとお祭りができない。

しかし、子供たちがバラバラに避難しているので、集まれるかどうかが大きな問題である。万が一は大人が鹿舞をやるか。

現在、大熊町に戻れる見通しはない。

支援策の希望（内容や希望金額など）

全部流出したので、頭をはじめ太鼓、装束など全部新調の必要がある。およそ100万円。

練習場も必要。

希望的観測として、H24年8月25日に集まったときにやれればよいが。

その他

「熊川稚児鹿舞保存会」(H21.4.20版)の名簿を頂いた。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

08）大熊町：２／３

調査日	平成24年3月24日（土）		
記入調査員氏名	懸田弘訓	同行調査員氏名	
調査地	福島県会津若松市		
無形民俗文化財	名称	長者原のじゃんがら念仏踊	
	所在地（被災前	大熊町夫沢字長者原	
	伝承団体名	長者原じゃんがら念仏踊保存会	
	聞き取り対象者	会長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

例年は8月13日に集落の新盆の家を回り、盆棚の前で略式で踊る。翌14日は夫沢字屋敷前の賽神社の祭礼で、境内で午後7時から盆踊を始める。午後8時からはじゃんがら念仏踊で、まず社殿で略式で踊ってから、境内で全種目を踊る。

平成23年は、原発事故で避難して行なうことができなかった。

（２） 伝承団体の人数・構成員など

保存会員は18歳で加入する。踊り手は男性で、20代もいるが40代から50代が多い。小中学生も参加することがある。踊は三部構成で、最初に鉦と太鼓で踊り、次に「中休み」といって、歌につれて女性10数人が踊る。最後に再び鉦と太鼓で踊る。

（３）用具・器具など

踊り手は太鼓2名と鉦12名ほどである。鉦と太鼓は集会場に保管していたが、地震で戸や窓が破損したために、放射能で汚染され、約1,000μSv/hある。衣装はビニールで包んでおいたために、汚染は免れた。

平成24年3月11日に、会津若松市の天恵苑で行なわれた慰霊祭に踊る予定であったが、用具が汚染していたために直前で中止した。

（４）公開や伝承のための施設や場所

津浪の被害はない。しかし、地震で用具等を保管していた集会場は戸や窓が、はずれ落ち、被害は大きい。賽神社は、道路が地震で破損して通れず被害状況は不明。

（５）必要な原材料等の確保

太鼓の放射線量は高い。原因はセシュウムと思われるために、短期間では減少しないので、新調したいという。鉦は洗浄すれば使用できる。鉦の紐も放射線量が高いので、交換したい。

衣装は保存会所有で、汚染を免れたために使用できる。

（６）映像記録や写真等の被災状況

保存会長は、映像を記録したDVD1枚、写真を収めたCD1枚を保管している。

借用してダビングした。さらに複製添えて返却した。

(7)その他(公開や実施に必要なもの)

旗2本、弓張り提灯2張。いずれも汚染されて使用できない。援助を求めている。

（８）地域や地域住民の被災状

津浪による家屋の被害はないが、瓦屋根は、ぐしが落ち、サッシもはずれるなど、かなりの被害がある。

集落の放射線量は1㍍の高さで50から60μSv/hあるため、居住は困難。集落の住民は主として会津若松市・郡山市・小野町に、県外にも数家族が避難している。

今後の展望

集落は放射線量が高いために戻ることは不可能で、現段階で今後の見通しは立っていない。

現在でも、踊り手のうち10数人は集まることは可能である。ただし、練習場の確保と旅費に苦慮している。

支援策の希望(内容や希望金額など)

太鼓2個と付属品で約10万円。

その他

30年から40年は戻れないと考えている。住民への希望する居住先アンケートでは、会津若松市・いわき市・各自の希望先の3種でとっている。

区長兼保存会長は、会津若松市に避難している。保存会員はもとより、区長管轄の住民の所在は、ほぼすべて把握している。

会長の妻は、「中休み」の踊り手の一人である。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

08）大熊町：３／３

調査日	平成24年3月27日（火）		
記入調査員氏名	小島　美子	同行調査員氏名	上西　律子
調査地	静岡県三島市		
無形民俗文化財	名称	大熊民謡（相馬民謡）	
	所在地（被災前	大熊町	
	伝承団体名		
	聞き取り対象者	伝承者　※「その他」参照	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

震災以前には大熊町で声捷会という民謡の会を組織し、小中学校で指導し、活発に活動していたが、もう大熊には戻れないと考え、三島市では小中学校で教え、演唱奏活動も行っている。

（２）　伝承団体の人数・構成員など

大熊では声捷会を組織していたが、三島市では、まだ組織なし。しかし三島市の文化団体と連絡があり、学校や施設で歌っている。

（３）　用具・器具など

（４）公開や伝承のための施設や場所

現在、小中学校、施設など。三島市で。

（５）必要な原材料等の確保

（６）映像記録や写真等の被災状況

話者は、ＣＤの私家版を持っている。

(7)その他(公開や実施に必要なもの)

相馬民謡の歌詞集を、話者自身が作っているが、重要な田植歌なども抜けているようなので、新たな歌詞集を作る必要がある。小中学校でも使っているらしい。大熊町民が町に戻れないとすれば、伝承上も必要と思われる。

（８）地域や地域住民の被災状

大熊町から三島市に避難しているのは、話者の家族のみで、大熊町の多くの住民は、会津若松市にいる。その他、郡山市、いわき市などにもおり、今後の町づくりが、どうなるかによって、大熊の民謡は伝承が危うい。

今後の展望

おそらく三島市内またはその周辺での指導や演唱活動が行われるだろう。

ただ会津若松市に避難している人々の中に声捷会の人もおり、そこでは大熊町民に教えることもあるという。

支援策の希望(内容や希望金額など)
その他
話者は大熊町から、親族のいる三島市に疎開してきた。話者は大熊だけでなく相馬地方の民謡をよく知っている。特に、いわゆる民謡界のような舞台民謡ではなく、昭和初期の民謡が生活の中で歌われていた姿を知っている貴重な存在。 おそらく今後は大熊あるいは相馬の民謡は、静岡県三島市に伝えられることになるだろう。民俗芸能は藩主の移封などで飛火することがあるが、民謡は一人の移動で飛火することがよくある。本件もまさに、その例ということができる。民謡の移動は偶然的な要因もあることがよく分かる。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

09）双葉町：１／４

調査日	平成 24 年 2 月 16 日（木）		
記入調査員氏名	今村瑠美	同行調査員氏名	懸田弘訓
調査地	埼玉県加須市		
無形民俗文化財	名称	郡山の神楽（正八幡神社の神楽）	
	所在地（被災前	福島県双葉郡双葉町郡山地区	
	伝承団体名	郡山無形文化財保存会	
	聞き取り対象者	会員	

震災による被害や影響

（1）公開や実施状況

郡山地区の正八幡神社の祭り、新暦 8 月 15 日、1 月 15 日で奉納していた。

1 月 15 日のお祭りの後、元は家を回っていたが、今は行っていない。厄流しや還暦、希望する人の家を回っていた。

（2）伝承団体の人数・構成員など

会員は 13 から 20 名で 20 代から 70 代後半までである。20 代が 2 人、30 代が 3～4 人。
氏子 105 軒が神楽に関わっている。

加須市には保存会会長、唱、太鼓、話者がおり、残りのメンバーは福島県内に避難している。

（3）用具・器具など

用具は流されなかったので無事である。

いわき市の南台の仮設に獅子頭を置いている。

太鼓は神社の中にあり、その他の用具や衣装は郡山地区の公民館に保管してある。

（4）公開や伝承のための施設や場所

戻れればいつでもできるが、警戒区域となっているため行事事態を行うことは不可能。

（5）必要な原材料等の確保

特になし。

（6）映像記録や写真等の被災状況

個人では持っているが、団体ではない。（映像資料をみたことあるがどこにあるか分からない状況である。）

（7）その他（公開や実施に必要な物）

必要なものは特にないが、踊り手の招集、もし、違う場所で公開する際は旅費が必要である。

（8）地域や地域住民の被災状況

郡山地区は全部で 130 戸あり、警戒区域になっているため全戸避難となっている。

八幡神社のこま犬が倒れており、社殿の戸もあいて、柱もずれていたが、屋根も銅版でそこまで被害が酷くなかった。一時帰宅の際、ずれていた柱も直した。

今後の展望

今後の展望はもしかしたら、福島県内での復活があるかもしれない。しかし、若い人たちは働き始めているから集まるのが難しい。もし、公開するならば旅費、練習場所、直会費が必要。

支援策の希望（内容や希望金額など）
支援の希望としては、練習場所、公開場所、それにかかる費用。
その他
3 月 12 日から 3 月 19 日まで川俣町に避難。 3 月 20 日から町の指示によりバスで埼玉スーパーアリーナに避難。 3 月 30 日、31 日にかけ埼玉県加須市の旧騎西高等学校へ避難。 旧騎西高等学校には町民 495 名、職員 81 名が所在。（2 月 15 日現在） 郡山地区全戸避難となり、バラバラに避難している状態であるが、保存会の人たちとは連絡がとることができる。 郡山地区には女ほうさい踊もあり、神楽よりメジャーである。前沢婦人会が踊っていた。前沢婦人会は 10 人前後で 40 才以上の女性がメンバーとなっていた。平均年齢は 60 才くらいである。3 月とダルマ市の時に踊っていた。用具や衣装や化粧品などは公民館に保管してある。震災前はいわき市や郡山市などで行われるイベントなどに呼ばれていたので行っていた。また、終戦後も仙台放送局で踊ったこともある。女ほうさい踊は声をかければ集まりやすい。 また、新山地区には、こどもほうさい踊もある。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

09）双葉町：２/４

調査日	平成 24 年 2 月 16 日（木）		
記入調査員氏名	今村瑠美	同行調査員氏名	懸田弘訓
調査地	埼玉県加須市		
無形民俗文化財	名称	三字（前田、水沢、目サク）の神楽	
	所在地（被災前	福島県双葉郡双葉町	
	伝承団体名	三字芸能保存会	
	聞き取り対象者	区長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

今年は三字の神楽は奉納していない。

震災前までは、旧暦の 2 月の初午に稲荷神社に奉納、1 月の第一土日のダルマ市で初発神社に奉納していた。また、以前は新築した家を神楽をして回っていた。新築以外にも、年流しや厄流しの時にも神楽をしていた。

旧暦 2 月の初午の際、浪江町請戸地区の人が海上安全などのお参りに来ていた。稲荷神社には県指定の前田の大杉があり、それがヤマシメとなっていた。

（２）伝承団体の人数・構成員など

震災前は保存会員が 7 名から 8 名、年齢は 25,6 才から 60 才。以前は三字の長男だけが保存会に入れた。

前一人、後二人、笛、太鼓、歌い手、他裏方。

人数が少ないので年によっては神楽を奉納出来ない場合がある。

頭が重いため若手の養成が課題となっていた。

（３）用具・器具など

用具は全部無事である。長持ちもあるが使っていない。

衣装や幣束も無事である。2.3 年前に太鼓の漆の塗り替えを行っている。行事そのものに影響はないが道具は公民館に 3 月 11 日から置きっぱなしなので、用具の状態が悪くなっているかもしれない。もし、保管場所を変えられるなら変えたい。県の文化財保護課で旧相馬女子高校に置けるように調整をしている段階である。

（４）公開や伝承のための施設や場所

警戒区域であるため、練習場所、行事事態を行う場所がない。

（５）必要な原材料等の確保

特になし。

（６）映像記録や写真等の被災状況

個人では映像はあるが保存会ではない。

町の歴史民俗資料館に、上羽鳥の神楽、女ほうさい踊、中野の田植え踊りの映像記録がある。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

特になし。

（８）地域や地域住民の被災状況

三字の中でも何軒か家が倒壊しており、倒れる寸前の家もある。

三字 260 戸が全戸避難で見通しが立たない状況である。

地震による被害として、目サクにある観音様の屋根が崩れている。

初発神社は戸が開いていて、柱がずれているが倒壊はない。

山の神講、ワカキ講などの石仏がそのままにしてある。

両竹などの浜地区は津波で流されている。両竹は旧浪江地区であり、浪江両竹と双葉両竹で芸能は共同で行っていた。用具などは諏訪神社に保管していると思っていたが、請戸地区に保存していたため流された。

中浜地区には田植え踊りと神楽があった。今後は環境づくり、イベントなどの支援など目標を持ってやることが大切である。用具などの保管場所は双葉に近いいわき市に用意できたらと思う。（学芸員の吉野氏からの聞き書き）

今後の展望
今後の展望などは考えられない。練習場所、旅費などを出せれば踊れるかもしれないが、保存会会員が集まるか分からない。

支援策の希望（内容や希望金額など）
神楽の新調、衣装など

その他
特になし。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

09）双葉町：３/４

調査日	平成 24 年 2 月 27 日（月曜日）		
記入調査員氏名	今村瑠美	同行調査員氏名	懸田弘訓
調査地	（福島県）都道府県（白河市　）区市町村		
無形民俗文化財	名称	上羽鳥の神楽	
	所在地（被災前	福島県双葉郡双葉町上羽鳥地区	
	伝承団体名	親羽会	
	聞き取り対象者	会員、区長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

毎年旧正月に行われるダルマ市で奉納していた。地区の中を希望する家を毎年二日間かけてまわっていた。上羽鳥地区は 38 戸。

（２）伝承団体の人数・構成員など

会員は 30 名くらいで 30 代から 60 代くらいまでである。親子で入っているところもある。老人クラブに入るまでは抜けてはいけない。一昨年から 30 代の人に代替わりをするため教え始めていた。

親羽会は神楽や盆踊りなどを行っており、神楽チーム、盆踊りチームに別れている。親羽会の会費は５０００円で、神楽、盆踊りに関しては町からの援助があるので区でお金を集めたりはしない。

また、親羽会は、元は青年団であったが、年齢が上がってきたので名前を変えた。

世代交代しようとした中、今回の震災後は今後の課題として継承問題があげられる。

（３）用具・器具など

用具は流されなかったので無事である。

獅子頭については元々区長宅で保管することになっていたので、一時帰宅の際に獅子頭を持ってきて、現在住んでいる白河の借り上げ住宅で保管している。衣装は各自保管となっているのでおそらく誰も持ってきてはいない。大小の太鼓があったが、観音様に入っていたので持ち出せなかった。一年余、使っていなく外に出したりもしていないので、状態が心配である。鈴や剣も持ってきている。

（４）公開や伝承のための施設や場所

戻れればいつでもできるが、警戒区域となっているため行うことは不可能。

（５）必要な原材料等の確保

特になし。

（６）映像記録や写真等の被災状況

DVD の映像記録あり。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

必要なものは幣束くらいであるが、それは自分で作る。

（８）地域や地域住民の被災状況

警戒区域となっているため、全戸避難している。北は米沢、南は東京に避難しているが、県内に避難している人たちが多い。

上羽鳥地区は津波の被害はないが、地震の被害は結構あり、道路、家など、倒壊しそうなものもあり、余震で崩れているところもある。

観音様、不動堂には5体の像があり、旧相馬女子高等学校におかせてもらう予定である。

初発神社の被害は大きく社殿など傾いている。鳥居は大丈夫である。

中野地区で１軒だけ津波の影響による火災があった。（田中家）また、中野地区は１５軒以上が流され、２０人以上が死亡し、１人が行方不明である。

中浜地区が一番津波の被害が大きく、２０軒くらいが流されている。流されたのは年配の人が多かった。その原因として、チリ地震の時は津波が大したこともなかったので、今回逃げる人が少なかった。

双葉町は南半分が絶壁で北半分が砂浜となっている。

今後の展望

区長である話者が震災後、上羽鳥地区の人にはがきを出して一度集まろうという連絡をとった。その結果、３月３１日に地区の人（５２名）が集まることとなり、その際に神楽も奉納する予定である。場所はリステル猪苗代。

支援策の希望（内容や希望金額など）

特になし。

その他

前会長は米沢におり、新会長は千葉にいるが、連絡をとろうと思えばとれる状況である。

3月11日は歴史民俗資料館におり、地震の時はすぐ外にでたが、立っていることができず、電柱につかまっていた。その際、家が倒れたりする音が聞こえてきた。

揺れがおさまると、歴民と図書館の職員の安否確認をした。15時くらいにラジオで10mの津波が来たと知った。そして、20時くらいに防災無線で、原発から3キロ圏内は避難しろという指示があったので、避難誘導もしていた。落ち着いたのは12時すぎである。

話者は妻と、近くに住む一人暮らしのひとを連れ、息子（長男）のいる白河に、避難をした。しかし、原発の爆発があったため、息子の子供（二人）、嫁、息子（次男）と5人で新潟に避難をした。それから4月2日まで新潟にいた。奥さんが南相馬市に親戚がいて、3人が津波などで流されるなどして、新潟から南相馬市に通っていた。

そして、現在は白河市の借り上げ住宅に住んでいる。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

09）双葉町：４/４

調査日	平成 24 年 2 月 27 日（月）		
記入調査員氏名	今村瑠美	同行調査員氏名	懸田弘訓
調査地	福島県白河市		
無形民俗文化財	名称	上羽鳥の田植え踊り	
	所在地（被災前	福島県双葉郡双葉町上羽鳥地区	
	伝承団体名	上羽鳥婦人会	
	聞き取り対象者	会員	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

以前は厄年や年祝いの家族がいる家や前年に婚礼を行った家から特に依頼を受けて踊っていた。それ以降は 12 年に 1 回の 4 月に行われる初発神社の還宮にだけ神楽のあとに奉納している。(『双葉町史 民俗編』参照)また、上羽鳥の観音堂の改修の時も奉納していた。改修の際、本尊は区長宅を借り宮としてそこに遷していた。最近では、5 年前までは 2 年に 1 回敬老会で踊っていた。

（２）伝承団体の人数・構成員など

元は上羽鳥地区の青年団により継承されてきたが、後に婦人会に変わった。青年団が継承していた時も女性が踊っていた。(『双葉町史 民俗編』参照)

現在婦人会は 15 名で踊り手は早乙女が 6 名、才蔵 6 名である。

会長１人、副会長(会計も行う)1 人

（３）用具・器具など

笛や太鼓などの用具は使っておらず、踊るときはテープを流し踊っていた。歌は「相馬流れ山」で歌のうまかった人の歌を録音したものである。衣装は浴衣以外上羽鳥地区の公民館に保管してあるが状態が悪くなっているかもしれない。

（４）公開や伝承のための施設や場所

警戒区域となりバラバラに避難しているため集まるのが難しい。練習場所、公開場所がない。

（５）必要な原材料等の確保

必要なものは特にない。

（６）映像記録や写真等の被災状況

DVD の映像資料がある。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

特になし。

（８）地域や地域住民の被災状況

上羽鳥地区は津波の被害はないが、地震の被害は結構あり、道路、家など倒壊しそうなものもあり余震で崩れているところもある。

観音様、不動堂には 5 体の像があり、旧相馬女子高等学校におかせてもらう予定である。

初発神社の被害は大きく社殿など傾いている。鳥居は大丈夫である。

中野地区で１軒だけ津波の影響による火災があった。（田中家）また、中野地区は１５軒以上が流され、２０人以上が死亡し、１人が行方不明である。

中浜地区が一番津波の被害が大きく、２０軒くらいが流されている。流されたのは年配の人が多かった。その原因として、チリ地震の時は津波がたいしたこともなかったので、今回逃げる人が少なかった。双葉町は南半分が絶壁で北半分が砂浜となっている。

今後の展望
3 月 31 日に上羽鳥地区での集まりがあるのでそこで今後の展望の話が出るかもしれない。
支援策の希望（内容や希望金額など）
特になし
その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

10）浪江町：１/10

調査日	平成24年2月11日（土）		
記入調査員氏名	懸田弘訓	同行調査員氏名	－
調査地	福島県いわき市		
無形民俗文化財	名称	高瀬の鹿舞	
	所在地（被災前	浪江町高瀬	
	伝承団体名	高瀬鹿舞保存会	
	聞き取り対象者	会長	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

諏訪神社と八幡神社の祭礼に行なってきた。諏訪神社の祭日は7月下旬の土・日曜日、八幡神社は9月第2の土・日曜日である。両社とも宵祭りには夕刻からの祭典に引き続いて神楽を舞い、午後７時半ころから鹿舞を行なう。翌日の本祭りには正午からの祭典に続いて、神楽と鹿舞を演じる。

平成23年は、原発事故により全戸が避難したために行なわなかった。

（２） 伝承団体の人数・構成員など

高瀬の戸数は約120戸であるが、保存会員は少なく、30代後半から50代中ごろまで15名である。高齢化が進み、後継者難である。役員は会長・副会長・会計・顧問各1名を置いている。

（３） 用具・器具など

津浪の被害はなかった。鹿頭・衣装などの諸道具は、すべて集会場に保管して、震災以降は一度も持ち出していないので、管理が心配である。

（４） 公開や伝承のための施設や場所

諏訪・八幡の両神社とも、原発事故で急遽避難したために被害状況の確認はできなかった。

（５）必要な原材料等の確保

集会場は新築して10年ほどなので地震による被害なかったが、用具類を震災以降1年間そのままにしてあるので心配である。

（５） 映像記録や写真等の被災状況

DVDに収めた映像記録が集会場と保存会員宅にあるが、持ち出していない。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

特にない。高瀬に戻ることができれば、再興できる。

（８）地域や地域住民の被災状況

津波の被害はなかったが、地震で半壊の家はかなりある。ことに台所と風呂の被害が目立つ。室内のカビも心配している。墓もかなり倒れている。電気・水道も止まっているところが多い。

今後の展望

保存会員の所在確認が難しく、把握できない会員が多い。

高瀬に戻られないのではないかと、心配している住民が多い。避難先に住民登録をした人、避難先で家を買い求めた人もいる。

支援策の希望（内容や希望金額など）
地元に戻ることが最大の願いで、かなえられれば後継者の問題はあるが、再興は可能である。 用具類の修理や新調が必要かは、戻らないはわからない。
その他
会長は、勤務先の都合でいわき市に居住している。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

10）浪江町：２/10

調査日	平成24年2月14日（火）		
記入調査員氏名	上野　智子	同行調査員氏名	懸田　弘訓
調査地	福島県いわき市		
無形民俗文化財	名称	請戸の神楽	
	所在地（被災前	福島県浪江町請戸	
	伝承団体名	請戸芸能保存会	
	聞き取り対象者	会長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

震災直前平成23年2月10日は通常通り開催。

震災直前に宝くじ助成のうちコミュニティ助成事業に190万円の申請をしてあった。それで、田植踊の衣装を新調した。

（２）伝承団体の人数・構成員など

請戸芸能保存会は田植踊りと神楽の両方を行っている。

会長、副会長、神楽：11名。笛3名。太鼓2名。（年齢層：35歳～52歳）

（３）用具・器具など

田植踊の太鼓が１つ残っただけで、残りは全部流された。

古い頭も社殿にあったが流された。

獅子頭については現在ナショナルトラストに申請中。これが通れば獅子頭については準備が整う。

（４）公開や伝承のための施設や場所

苕野(くさの)神社にて:7月6日夜こもり(盆踊り)。7月7日田植踊りと獅子舞のセットで踊られる。H24年はどこかの仮設住宅で行いたい。

被災後、獅子舞は一度も集まって踊っていない。

（５）必要な原材料等の確保

幣束のくしの部分は木でできている。

（６）映像記録や写真等の被災状況

昭和60年の神楽のＤＶＤを懸田団長が持っている。

震災前の自宅の写真と震災後の全部流された自宅の跡の写真を、写真データとして持っている。その他、神社や集落の被災状況の分かる写真を持っている。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

獅子舞の幕と舞方の衣装は、宝くじの補助金より調達した。

そのほか、鈴、頭、白髪の獅子が必要。

（８）地域や地域住民の被災状況

請戸の403戸は全滅状態。神社から堤防までは30mぐらいしかなく、社殿の土台しか残っていない。宮司さんの家族4人が亡くなった。小学生のお子さん2名は生存されている。

請戸の人は、二本松または福島市に避難している人が多い。本宮には津島の人も多い。

今後の展望
平成24年7月7日に仮設住宅で開催できるか未定である。
支援策の希望（内容や希望金額など）
震災前に申請していた宝くじ助成や震災後のナショナルトラストの助成金などで、少し道具類はまかなえた。 今後の方針は会長や役員の考え方次第である。頂いたお祝いや支援金はすべて貯蓄している。 問題点は、後継者と開催費用。
その他
会長より、震災後と今後の「請戸芸能保存会公演記録」の一覧表を頂いた。 また、大分県のNPO法人中津地方文化研究所から、「民衆のいのりとかたち」と銘打った東日本大震災復興祈念のための平成大神楽公演(H23.9.24)で集まった支援金20万円が会長宛てに送られてきたとのこと。さらに個人的にも1万円の送金があったとのこと。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

10）浪江町：３/10

調査日	平成 24 年 2 月 17 日（金）		
記入調査員氏名	今村瑠美	同行調査員氏名	懸田弘訓
調査地	東京都江東区		
無形民俗文化財	名称	請戸の田植え踊り	
	所在地（被災前	福島県双葉郡浪江町請戸地区	
	伝承団体名	請戸芸能保存会	
	聞き取り対象者	会員	

震災による被害や影響

（1）公開や実施状況

毎年請戸地区の苕野神社の「あんばさま」の祭りで田植え踊りを奉納していた。前回は平成 23 年 2 月 20 日（第 3 日曜日）に行われ、最初に神社に奉納し、次に民家を回り、浜下りをし、また民家を回る。民家は全部で 20 軒回った。お祝い事や船方、商売、赤ちゃん誕生、新築などの家々を回る。

「あんばさま」の終了後、踊り手の子どもたちにはご祝儀から 3000 円のお礼をあげる。ご祝儀の目安としては多いところで 10000 円であるが相場は 3000 円である。最近は回る家が少なくなってきたので保存会側から頼みに行ったりもしていた。

震災後は、7 月に、はじめて練習として一度集まり、8 月には、いわき市のアクアマリンふくしまにて田植え踊りを公開している。その後、請戸の田植え踊りは、数々のイベントや芸能大会にて公開している。

2 月 19 日にも毎年行われていた「あんばさま」の祭りを行う。その際、福島市にある仮設住宅と二本松にある仮設住宅にて田植え踊りを踊る予定である。現地でも慰霊祭として行う。

（2）伝承団体の人数・構成員など

会員は 26 名で内踊り手が 18 名（小学 1 年生から高校 3 年生）である。

請戸の子どもとして限定してきたが、今のままでは続かないので、避難先などでの同じ学校の友達などに広めたりしていかないといけない。それは、震災後 1 回目の練習では全員集まったが、だんだん集まりが少なくなってきているという問題もでてきているからである。

請戸芸能保存会は震災後、神楽と一緒になった。前から保存会を一緒にしようという話がでており、今回を機に名簿を一緒にした。

（3）用具・器具など

用具、器具、衣装すべて社務所に保管していたため流されている。後に大太鼓が見つかり、皮を貼りかえ使用している。また、サイゾウの浴衣やナカブチの衣装も助かった。笠も流された。

笠に関しては、本調査団長である懸田先生が外枠を作り、花を保存会会員で作った。

早乙女や囃子方の下駄も流されたため、話者が浅草の辻屋本店という下駄屋に頼んだ際、辻屋さんが無料で作ってくれた。辻屋さんは以前から今回の震災で被災された方々になにかしたいという強い気持ちを持っていた。

（4）公開や伝承のための施設や場所

警戒区域また、津波により壊滅的な被害を受けているので現地での公開は無理。

（5）必要な原材料等の確保　例：竹を切ってきて材料にしていたが、竹林が半壊して入手できない。
太鼓は水につかったため音が重くなっているので新調したほうが良い。また、太鼓を乗せる台は、会長が手作りで作ったが不安定なこともあり、台も必要である。
移動の手段に費用が凄くかかっている。

（6）映像記録や写真等の被災状況
請戸地区は全戸が津波により流されているため、去年の「あんばさま」の映像なども全て流されている。

（7）その他（公開や実施に必要な物）

（8）地域や地域住民の被災状況
請戸地区全戸が津波により流され、原発事故のため警戒区域となり全戸避難の状況である。
今回の津波で苕野神社の宮司夫妻、禰宜夫妻も津波で流されている。

今後の展望

2011 年度も、数々のイベントに参加してきたが、2012 年度も、2 月 19 日に「あんばさま」での奉納、2 月 26 日、二本松伝統芸能祭に参加、3 月 11 日、二本松で行われる復興イベントでの公開、6 月から 7 月くらいに韓国万国博覧会での公開、7 月 28 日から 30 日明治神宮で奉納、10 月 27 日、28 日には全国伝統芸能祭へ参加の予定がある。

支援策の希望（内容や希望金額など）

新しい太鼓と太鼓の台が必要。

その他

話者は、3 月 11 日、地元のホテルでお客様の対応。3 月 12 日のお昼過ぎに東電が危ないと知り、夜、津島へ、お客と避難したが、津島が、いっぱいだったので川俣町へ行った。12 日の内に家族と合流。現在は東京都江東区に避難し、話者一人で住んでいる。話者の他に何名か浪江町の人もいる。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

10）浪江町：４/10

調査日	平成24年2月28日（火）		
記入調査員氏名	懸田弘訓	同行調査員氏名	上野智子
調査地	福島県二本松市		
無形民俗文化財	名称	室原の田植踊	
	所在地（被災前）	浪江町室原字村木（室原公民館）	
	伝承団体名	室原芸能保存会	
	聞き取り対象者	会長、区長	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

平成22年1月24日に八龍神社と秋葉神社の仮遷宮を行い、神楽・田植踊・石代量りも演じた。遷宮は7年に一度で、やや規模を縮小した遷宮を仮遷宮、大規模なものを正遷宮といっている。前回は平成16年でやはり仮遷宮であった。正遷宮は、昭和55年以後行なっていない。田植踊と石代量りは、この遷宮(仮遷宮も含む)に行なわれる。

平成23年は、遷宮の年にあたらず行なっていない。

（２）伝承団体の人数・構成員など

室原は、近年戸数が増えて約189戸である。現在の保存会員は20代から40代の20名である。役員は会長(公民館長)・副会長(副公民館長)・庶務・会計各1名である。なお、これまで保存会は公民館活動の一つとしてきたが、震災直前に切り離す話が出ていた。

（３）用具・器具など

早乙女の留袖、道化の浴衣などの一式は個人持ちのものを用いてきたので、被災後もそのまま自宅に置いてある。笛・太鼓は保存会所有で、公民館の押入に入れて保管してきた。いずれも一年以上そのまま 置いてあるだけに、保管状況を心配している。

（４）公開や伝承のための施設や場所

遷宮での行列約150人で、区長宅から八龍神社に向かい、観音寺で直会を行なう。

芸能は区長宅と八龍神社で演じる。地震による大きな被害はなかった。

（５）必要な原材料等の確保

和紙や竹などの消耗品程度で、特にない。

（６） 映像記録や写真等の被災状況

平成22年の仮遷宮のDVDを保存会長が所有している。

今回の調査で借用し、ダビングした。なお所有者にも今後の保管を考慮し、複製して届けた。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

早乙女の留袖9人分一式と、留袖の着付けの講習会の開催を望んでいる。

（８）地域や地域住民の被災状況

放射線量が高い警戒区域のために、町民は和歌山県と鳥取県を除く都道府県に避難している。

室原の住民は、県内では主として二本松市・福島市・本宮市に避難している。

今後の展望
課題は多いが、平成24年秋に再興をめざしている。3月下旬に室原の大字会を開き、今後の方針を決める予定である。
支援策の希望（内容や希望金額など）
個人持ちの衣装はかなり傷んでいるので、保存会所有の早乙女の留袖一式(30万円×9人分、計270万円)の補助を要望している。貸衣装を借りる方法もあるが、回数が多いと負担も大きくなる。
その他
保存会長は、二本松市の借り上げ住宅に避難している。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

10）浪江町：５/10

調査日	平成24年3月28日（火）		
記入調査員氏名	懸田弘訓	同行調査員氏名	上野智子
調査地	福島県二本松市		
無形民俗文化財	名称	棚塩の神楽	
	所在地（被災前）	浪江町棚塩字舘野４（保存会長宅）	
	伝承団体名	棚塩郷土芸能保存会	
	聞き取り対象者	会長	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

昭和50年代までは、1月2日に村祈祷といって、貴布禰神社に奉納してから、厄年の家族がいる家などに舞い込んだ。現在は10月16日の貴布禰神社の秋祭りに、社前で演じている。

平成23年は地震と津波による災害があり、行なうことはできなかった。

（２）伝承団体の人数・構成員など

保存会員は、40代から70代までの6～7人。ここ数年はこの人数で、継承に苦慮している。

（３）用具・器具など

獅子頭と楽器・諸道具は、集会場の2階に保管していた。集会場も津波に襲われたが鉄筋構造のために流失は免れた。しかし、波は2階にまで達し、すべて潮にひたった。獅子頭には多くの傷ができた。太鼓は革が使用不能になった。笛は流失した。

（４）公開や伝承のための施設や場所

神社は高台にあるので津波の被害ないと思われるが、未確認である。

（５）必要な原材料等の確保

消耗品程度で、特にない。

（７） 映像記録や写真等の被災状況

ビデオテープを集会場に保管していたが、すべて流された。ほとんどの家屋が流されたので、個人持ちでも失った可能性が高い。

（８） その他（公開や実施に必要な物）

塗り師によると、獅子頭などの塗り物は、いったん潮を被ると、潮抜きしてから漆を塗るなどの修理をしても剥がれる可能性が高く、新調以外にないという。

（９） 地域や地域住民の被災状況

棚塩は北棚塩と南棚塩からなる。北棚塩は高台で、津波による被害はなかったが、南棚塩は90戸のうち80戸が流失、残る10戸も被害甚大で住める状態にない。見つかったのは位牌１点と写真各2～3点だけであったという。

今後の展望

平成23年7月に再興のために40万円の補助の話があったが、その見通しがないために辞退した。

支援策の希望（内容や希望金額など）
再興するとなれば、獅子頭・太鼓などすべて新調する必要がある。 費用は獅子頭60万円(市販品ではなく元のものを復元)、獅子幕10万円、太鼓50万円、その他10万円である。
その他
保存会長は郡山市日和田町に避難し、二本松市内の浪江町役場二本松事務所に通勤している。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

10）浪江町：６/10

調査日	平成24年2月28日（火）		
記入調査員氏名	懸田弘訓	同行調査員氏名	上野智子
調査地	福島県二本松市		
無形民俗文化財	名称	苅宿の鹿舞(神楽も伝えられている)	
	所在地（被災前	浪江町苅宿字川原248-2（保存会長宅）	
	伝承団体名	苅宿鹿舞保存会	
	聞き取り対象者	顧問	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

苅宿の鎮守標葉神社の祭礼に行なってきた。祭日は、古くは8月15日であったが、戦後は10月5日に、平成になって間もなく11月3日になり、現在は同月の第2日曜日になった。

平成23年は、原発事故で避難したため実施していない。

（２） 伝承団体の人数・構成員など

かつては苅宿と加倉の両地区で継承していたといい、明治になって苅宿だけになった。戦後しばらくまでは青年会が運営していたが、後継者難になり、昭和35年ころに保存会を結成した。現在、会員は23名である。笛方の養成が急務である。

費用は供奉田7反からの収入と祝儀をあてている。

（３） 用具・器具など

津浪の被害はない。鹿舞の頭は標葉神社の拝殿に下げてある。社殿の被害はないので、未確認ではあるが、大丈夫と思われる。神楽もあり、その頭は公民館に置いた大太鼓の上に載せ てある。衣装は舞方が使用後洗濯して保管している。いずれも一年間そのままなので心配し ている。

（４）公開や伝承のための施設や場所

神社の門は地震で倒れたが、社殿に被害はない。

（５）必要な原材料等の確保

必要なものは消耗品程度で、特にない。

（６）映像記録や写真等の被災状況

個人で持っている人がいると思うが不明。（調査員の懸田が撮影したものがある）

（７）その他（公開や実施に必要な物）

消耗品程度で、特にない。

（８）地域や地域住民の被災状況

地震による被害はあったが、内陸部のために津浪の被害はない。

原発事故による放射能の汚染のために、全町民約21,000人が避難している。県内14,000人(福島市3,800人、いわき1,800人,二本松700人、郡山1,500人、ほか)、県外7,000人である。

苅宿の放射線量は、20～50μSv/hで、居住制限区域になる可能性が高い。

電気は町内の2/3が停止、上下水道の破損は多く、復旧に日時を要する。

今後の展望
震災前に、神楽用の大太鼓と小太鼓の寄付の申し出があったが、そのままになっている。 再興したいが、現在のところ未定。
支援策の希望（内容や希望金額など）
神楽用の大太鼓と小太鼓が古くなったので、新調する必要がある。約60万円
その他
話者は鹿舞の「法がん」を舞った。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

10）浪江町：７/10

調査日	平成24年2月22日（水）		
記入調査員氏名	上野　智子	同行調査員氏名	懸田　弘訓
調査地	福島県福島市		
無形民俗文化財	名称	本城の神楽	
	所在地（被災前	浪江町大字権現堂字本城(もとじょう)	
	伝承団体名	浪江町第四区本城御神楽保存会	
	聞き取り対象者	顧問	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

元日から3日まで行われる。お正月三が日は神楽だけを舞う。夜遅くまで行われ、鳥喰～新町通り～元町の順で回る。

H.23.1.2は13軒回った。

（２）伝承団体の人数・構成員など

5年ほど前から若い後継者たちがやっと育ち始めたところだった。保存会の会員は27名。年齢層は、40歳代～74歳。74歳の最高齢は本城嘉久氏。5年ぐらいで一人前になれる。

本城の4区は200件以上あるが、権現堂の方が件数は多い。権現堂は、S10年から始まった。嘉久氏の父親が小高の上浦から婿入りされて、その時この芸能を移した。

（３）用具・器具など

道具類はすべて浪江町の自宅に保管中。しかし、今後もそのままというわけにもいかず、どこかよい保管場所があればよい。

獅子頭、衣裳、太鼓大小は特に被害はない。笛は各自で保管していた。

（４）公開や伝承のための施設や場所

権現神社は健在である。

浪江町の自宅には、4間×7間の広い練習場がある。いつもそこで練習していた。

（４）　必要な原材料等の確保

必要なものは特にない。

（６）映像記録や写真等の被災状況

ビデオはたくさんあるが、浪江に取りに行くのが大変である。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

原町の6号線からは一時入りやすかった。津島の114号線を通っても浪江に入れる。浪江に帰って見たら、近所の家が5軒ほどつぶれていた。今までに、話者は10回ほど浪江に帰っているが、同氏の妻のほうがもっとたくさん帰っている。

今後の展望

浪江では、ソーラーがあるので電気は大丈夫だと思う。水も自家水がある。線量も福島より低いほどである。しかし、原発問題は今後40年ほどかかりそうなので、実際に帰るのはあきらめている。

支援策の希望（内容や希望金額など）
道具類は直してから10年ほどなので、今後もできればよい状態で保管できるようにしたい。 懸田氏が、美術館や博物館（例：まほろん）などの収蔵庫に保管してもらうのがベストかもしれないと提案したら、少し希望を持たれたようであった。
その他
話者は笛担当。7代目のとき岩手から移住してきた。もとは「本条」と書いたらしい。 自分の生活が大変なのに人のことをかまっていられない状況である、との発言あり。 保存会の会員を探してもらい、復興への意欲を持っていただきたいと建設的な方向へ提案した。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

10）浪江町：８/10

調査日	平成24年3月15日（木）		
記入調査員氏名	懸田弘訓	同行調査員氏名	上野智子
調査地	福島県二本松市		
無形民俗文化財	名称	幾世橋の神楽	
	所在地（被災前	浪江町幾世橋字町後87-88 初発神社	
	伝承団体名	幾世橋芸能保存会	
	聞き取り対象者	指導者	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

元日から2日まで、村祈祷といって初発神社をかわきりに、集落を巡る。集落の戸数は近年増えて約700戸であるが、舞い込むのは厄年や新築などで希望のあった家だけで例年20戸前後である。また11月23日の初発神社の新嘗祭にも、祭典のあと社前で舞う。

平成23年は、原発事故で避難したために行なうことかできなかった。

（２）伝承団体の人数・構成員など

保存会員は、現在20名である。会員は40代が多く、20代、30代、60代は2名から数名である。

会長は70代である。役員は会長・会計・事務局各1名を置いている。

（２） 用具・器具など

獅子頭は、新旧二つある。獅子幕も約4㍍と長い。古い頭は、社務所に置いたが、平成24年3月8日に、社務所わきの倉庫に移した。新しいものは平成17年に新調した合成樹脂製で、古いものよりわずかながら大きい。これは宮司宅に保管している。

（４）公開や伝承のための施設や場所

神社など境内の建物に地震による被害はない。

（５） 必要な原材料等の確保

消耗品程度で、特にない。

（６）映像記録や写真等の被災状況

平成17年に伊勢神宮で披露した際のビデオテープがあるが、所有者は不明。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

笛方の法被がほしい。

倉庫はトタン葺きで不安なために、新しい倉庫、それが無理なら保管場所がほしい。

（８）地域や地域住民の被災状況

津浪による被害はない。しかし、地震により約700戸のうち、4軒が全壊、20軒が半壊した。瓦が落ち、雨漏りして住めない家もある。

幾世橋は、請戸とともに放射線量は比較的低いが、全戸が戻られる見通しはない。

今後の展望

近い将来の再興を強く望んでいるが、保存会20名のうち、県内に13名(福島市4名、本宮市2名、二本松市・白河市・伊達市・郡山市・塙町・会津若松市・南相馬市各1名)、県外に6名(福井県2名、東京都・千葉県・埼玉県・秋田県各1名)避難しているために、集まる時間と場所に苦慮している。

支援策の希望（内容や希望金額など）
倉庫があるが、代わりの保管場所がほしい。
その他
保存会長の避難先は、埼玉県戸田市

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

10）浪江町：９/10

調査日	平成24年3月21日(木)		
記入調査員氏名	懸田弘訓	同行調査員氏名	上野智子
調査地	福島県本宮市		
無形民俗文化財	名称	下津島の田植踊	
	所在地（被災前）	浪江町下津島	
	伝承団体名	下津島芸術保存会	
	聞き取り対象者	会長	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

平成23年は原発事故により全町が避難した。昭和50年代までは、旧正月の14日から17日まで(16日は仏の日といって休む)、集落を下から上に向かって戸ごとに舞い込んだ。平成10年代の初めまでは、稲荷神社の祭礼にも踊った。近年は地元の催しや他からの依頼がある ときだけになった。

（３） 伝承団体の人数・構成員など

かつて戸数は約100戸であったが、現在は50戸である。

保存会には全戸加入しているが、現在の踊り手は30代後半から60代後半の男子10名で、不足している。

踊り手のうち「ささら持ち」は小学3年から5年の男子で、近年女子も加わったが、それでも後継者難である。

（４） 用具・器具など

用具はすべて庭元の蔵に保管していて心配ない。しかし、衣装は購入して約30年を経過して、かなり傷んでおり、しかも集会場に保管して持ち出せず、この一年間虫干しをしていないので心配している。できれば新調したい。

（４）公開や伝承のための施設や場所

家屋敷の被害は少ないが、津島地区は全域がことに放射線量が高く、居住できない。

（５）必要な原材料等の確保

地震による被害は軽微であったので、特にない。

（６） 映像記録や写真等の被災状況

昭和61年度と平成14年度に、文化庁の補助で４集落の田植踊と神楽ほか付属の芸能もすべて収録し、ＶＨＦテー プで保管していたが、地震と放射線による避難で、一部所在不明なものがある。

当地は放射線量が高く、住民全員が避難していて、しかも後継者難であるところから 地元での再興は当分難しい。それだけに映像資料すべての確認と保管が急務である。

（７） その他（公開や実施に必要な物）

早乙女6名の留袖一式、鍬頭1名のどてらと前掛け、太鼓2名の袷一式、歌上げ2名の羽織と袷一式、ささら2名の浴衣一式。新調すると計344万円を要する。

再興するためには、一週間程度の練習が必要である。

（８）地域や地域住民の被災状況 　地震による家屋の被害は少ないが、放射線量が高く福島市・本宮市・二本松市・田村市・桑折町などに避難している。
今後の展望
区長は毎月下旬に、担当地区を家ごとに放射線量を図り、その数字を表示している。 放射線量は地表で120から130μSv/hで、居住困難区域に指定される可能性がある。
支援策の希望（内容や希望金額など）
踊り手の衣装一式　344万円
その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

10）浪江町：10/10

調査日	平成24年3月21日（水）		
記入調査員氏名	上野　智子	同行調査員氏名	懸田　弘訓
調査地	福島県二本松市		
無形民俗文化財	名称	赤宇木の田植踊り	
	所在地（被災前	浪江町大字赤宇木字塩浸	
	伝承団体名	赤宇木芸術保存会	
	聞き取り対象者	前会長	

震災による被害や影響

（1） 公開や実施状況

例年1月14～17日に開催(16日を除く)。昭和20年代ごろまでは、1軒1軒回った。

集会所（赤宇木）→神社（山津見神社）→請戸川（下から上）へ巡回。依頼があれば踊った（祝儀、新築、年直し)。

（2）伝承団体の人数・構成員など

保存会会員　30名　(踊り手13人とお手伝いの人々も全部会員)

ふくべ1名。歌2名。太鼓2名(50歳代～60歳代)。早乙女5名(20歳代～50歳代)。ささら2～3名(小学生)。

震災前から人が少なくなった。

（3）用具・器具など

以前、宝くじ助成金で、衣装、足袋などを新調したが、着物にカビが生えてしまった。

保管したままなので、放射能の影響が心配である。道具類など、特に壊れたものはない。

神楽の頭は、後ろ側が壊れている。平成15，6年ごろ一度修理に出した。古いので塗り替えの必要がある。

（5） 公開や伝承のための施設や場所

練習は、赤宇木の集会所の中で行っていた。夜7時～9時。

第1回赤宇木のつどい：平成24年2月12日二本松駅前の交流センター：87戸中、100人ぐらい集まった。

第2回のつどいを4月か5月に予定しているので、その時に田植踊りがやれればやりたい。

（5）必要な原材料等の確保

幣束を新しくする予定。

着物のクリーニングに出さなければならない。小物は自分で洗濯できる。

（6）映像記録や写真等の被災状況

10年以上前に、庭元宅で津島4地区の田植踊りを開催したDVDがあるはず。公民館に保管してある。

（7）その他（公開や実施に必要な物）

（8）地域や地域住民の被災状況

赤宇木の人々の避難先

県内：小浜(杉田)5，6軒、桑折町4軒、安達運動場3軒、郭内3軒、農場広場3軒、笹谷3軒、北幹線1軒、南矢野目1軒

県外：千葉県2軒、茨城県1軒、神奈川県1軒

今後の展望
今年の4月か5月に第2回赤宇木のつどいを行うので、その時田植踊りがやれればいい。練習場は、この農村広場仮設住宅の集会場を借りられる。2，3回練習すれば、できると思う。保存会の人々は、桑折町、福島市に避難しているので、集まれると思う。 赤宇木の線量は、かなり高いので、10年以上は帰る見込みはない。30μSv/hほどの地域もある。
支援策の希望（内容や希望金額など）
着物のクリーニングと頭の塗り替えと修理。
その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

11）葛尾村：１／３

調査日	平成24年3月15日（木）		
記入調査員氏名	上野　智子	同行調査員氏名	懸田　弘訓
調査地	福島県田村郡三春町		
無形民俗文化財	名称	宝財踊り	
	所在地（被災前	葛尾村大字葛尾字野行（のゆき）	
	伝承団体名	野行宝財踊保存会	
	聞き取り対象者	会長	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

3年に1回程度、11月3日に村のイベントで行っていた。費用は東電からの援助金。H20年に行いH23年は開催の予定だったが、震災で行えなかった。愛宕神社のお祭り(10月第4日曜日)では、4年に1回程度の開催。踊りは浪江の川添から教わった。大正時代から始まり、何回も中断し、戦後23，4年ごろから再び復活し、また中断し、S50年代に復活し今日に至っている。

（２）伝承団体の人数・構成員など

会員15名。(会長1名。副会長1名。会計庶務1名。役員1名。踊り手10名。笛1名。)20歳代～50歳代

会員は有志の人々による。反省会（直会）は盛大にということで、費用は村からの援助2万円と祝儀に足りないときは自費を足す。

（３）用具・器具など

踊り手は10名(太鼓1名。ばち1名。棒振り1名。すりこぎ1名。子だき嫁1名。ささら1名。博徒1名。座頭1名。等)

それぞれの用具は、村の集会所の押入れに入れてある。10年前のふくしま未来博の時に衣装を新調した。道具一式も新しくしてある。

（４）公開や伝承のための施設や場所

神社から30mほどの部落の集会所の広場で行っていた。S23年ごろ復活した当時は道路を踊りながら歩いた。

今の踊りはしなやかな女性的な踊り方になったが、昔はもっと活気のある踊りだった。

（５）必要な原材料等の確保

震災後道具類は確認したが、特に被害はなかった。衣装は虫干ししてから片付けたので、今のところは大丈夫である。

（６）映像記録や写真等の被災状況

大山さんが個人的に収録した映像がある。テープで撮った。

自宅にあるので3月20日に一時帰宅したときに持ってくる。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

（８）地域や地域住民の被災状況

他の保存会の人々の避難先：県内（石川郡、棚倉、三春、郡山市、福島市）県外（埼玉）
狐田仮設団地内に6名いる。

今後、話者は郡山市富久山の借り上げ住宅に移られる予定とのこと。

今後の展望
葛尾村は浪江町と同様比較的線量が高いところが多い。
支援策の希望（内容や希望金額など）
その他
震災後の避難状況 3/14、9:30頃防災無線で避難の指示があった。あづま体育館(福島市)→会津坂下町の川西公民館→柳津町の旅館→三春狐田の仮設

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

11）葛尾村：２/３

調査日	平成24年3月18日（日）		
記入調査員氏名	上野　智子	同行調査員氏名	懸田　弘訓
調査地	福島県郡山市		
無形民俗文化財	名称	葛尾の三匹獅子	
	所在地（被災前	葛尾村大字葛尾字寺前（寺前は通称）	
	伝承団体名	特にない	
	聞き取り対象者	正世話人（代表）	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

例年は、9月の秋祭りの時に、磯前神社で舞う。日山(天王山)の3か所の神社でも近い日に舞う。

H23年9月に三春の仮設住宅で小規模ではあるが踊ったらしい。衣装、用具などは、葛尾に取りに行って、終わったら葛尾に戻した。仮設住宅には保管場所がないから。仮設に住んでいる子どもたちが舞った。

（２）伝承団体の人数・構成員など

特に保存団体のようなものはないが、正世話人・副世話人・会計の3役を、2，3年ごとに持ち回りで行っている。任期は1年。会計→副世話人→正世話人と、年とともに役が上がっていく。大体、会計は20歳代ぐらい。副世話人は30歳代後半。正世話人は40歳後半ぐらいの年齢。50歳以上はあまりしない。葛尾村は約2000戸。上葛尾と下葛尾でおよそ50～70戸ぐらい。

獅子舞自体は小学生が舞う。

（３）用具・器具など

下葛尾の集会所の押入れの中の箱に保管してある。頭と衣装は一緒に保管してある。

H23年9月に仮設で舞ったので、その時一旦出して、また葛尾の集会所に戻した。（太鼓、頭、衣装など）　集会所は新築で6，7年目ぐらい。保管場所の湿気は多少心配である。

（４）公開や伝承のための施設や場所

葛尾は、避難準備区域だが、ほとんどの人が外に避難している。

通常は、磯前神社の社殿の前と集会所の外の広場で舞っていた。磯前神社では略式、集会所の前は近所の人々がたくさん集まる場所である。日山のときは、集会所では舞わない。

（５）必要な原材料等の確保

用具・衣装類には被害はない。

線量の関係で、子どもたちが帰ってこないと大人がやるしかない。しかっし、三匹獅子の衣装は子供用なので、子どもがいなくなったら大人がやるためには大人用の衣装を準備する必要がある。

（６）映像記録や写真等の被災状況

映像記録を引き継いだ記録はない。

踊りの師匠さん(46歳ぐらい)が持っているかも。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

H23年の9月の仮設のときは、子どもが足りなかったので、獅子に比較的背の低い大人が入って舞った。踊る場所と練習場所がほしい。集会所は8～10畳ぐらいで狭い。道化も出てきて動きが大きい。

獅子舞を子どもたちが舞うための練習は、非常に教育的にもよい。

（８）地域や地域住民の被災状況

地震でかわらは破損しているが、家自体が倒壊している家はない。

問題は放射線。

今後の展望

自宅の周りを除染しても全く役に立たない。山は除染の仕様がない。村の広報誌にも見通しがないと書いてある。

敷井畑のあたりは、1.7マイクロシーベルトぐらい。

今年H24年の夏か秋に上下の先輩方に集まってもらって、獅子舞のための総会をひらき保存会を作る予定である。30～40人ぐらい集まる予定。

支援策の希望（内容や希望金額など）

獅子舞の大人用の衣装一式。

その他

正世話人、副世話人：郡山市に避難。会計：船引に避難

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

11）葛尾村：３/３

調査日	平成24年3月18日（日）		
記入調査員氏名	懸田弘訓	同行調査員氏名	上野智子
調査地	福島県三春町		
無形民俗文化財	名称	岩角の神楽	
	所在地（被災前	葛尾村落合	
	伝承団体名	岩角神楽保存会	
	聞き取り対象者	会長、会員（道具を三代にわたり保管）	

震災による被害や影響

（１）公開や実施状況

例年は旧暦8月15日の八幡神社の秋祭りに、社殿前で舞う。平成の初めまでは神輿渡御も行い、6か所のお旅所でも舞った。古くは元日から1週間ほどかけ、集落の約100戸に舞い込んだ。

平成23年は、原発事故で避難したために行なわなかった。

（２）伝承団体の人数・構成員など

保存会には落合地区の岩角集落の25戸が加入している。舞に携わっているのは、30代から60 代の8名から10名ほどである。

舞手は3名から4名、囃子方は笛2～3名、鉦留大太鼓1名である。

（３）用具・器具など

用具類は個人宅で、3代にわたって保管している。獅子頭は神棚に置いてあるが、震災以降、確認していないので、鼠の被害なども心配している。襦袢などの衣装も預かっている。仮設住宅は狭いために持ち出せず、保管場所がほしい。

（４）公開や伝承のための施設や場所

八幡神社では社殿前で、民家では神棚の前で舞う。

津浪の被害はない。地震翌日の原発事故ですぐに避難したために神社の被害状況は不明である。

（５）必要な原材料等の確保

消耗品程度で、現在のところ特にない。

（６）映像記録や写真等の被災状況

松本光清氏宅にビデオテープがあるが、警戒区域のために取りに行かれない、一時帰宅が許された時に持ち出したいという。その折、借用を依頼した。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

特にない。

（８）地域や地域住民の被災状況

現在の保存会員8名のうち4名は三春町の仮設住宅に、他の４名は郡山市・いわき市・田村市・船引町・千葉県に避難している。住所は把握していて、連絡をとることはできる。

今後の展望

後継者難で苦慮していたが、今回の被災でさらに困難になった。これまで落合地区のうちの岩角集落だけで継承していたが、落合地区全体に広げないと、継承は困難である。
支援策の希望（内容や希望金額など）
獅子頭の塗りがはげてきたので、塗り替える費用を補助してほしい。頭の毛(毛髪)もとれてきたので補いたい。費用約30万円
その他

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

13）飯舘村：１/２

調査日	平成24年3月9日（金）		
記入調査員氏名	懸田弘訓	同行調査員氏名	小島美子、岩崎真幸
調査地	福島県福島市		
無形民俗文化財	名称	比曽の田植踊・三匹獅子舞	
	所在地（被災前	飯舘村比曽	
	伝承団体名	比曽芸能保存会（三匹獅子と田植踊を継承）	
	聞き取り対象者	区長	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

田植踊は、かつては小正月に田神社（通称 田の神様）に奉納したあと、厄年の家族のいる家と新築した家に舞い込んだ。近年は1月下旬に田神社で演じることにしているが、後継者難で定まっていない。平成23年は休んだ。

三匹獅子舞は、かつては３年おき、近年は５年おきの9月第1日曜日に行なわれる「四社祭」という田神社（通称 田の神様）・羽山神社・愛宕神社・稲荷神社合同の祭礼に、境内ほかで、踊ってきた。元来、祭日は別々で、昭和61年から合同で行なうようにした。

平成23年の祭りは原発事故による避難で行なわなかったが、平成24年1月29日に福島市で開催された「絆つながるふくしまの春」という催しに出演するなど、震災以後2回公開している。

（２）伝承団体の人数・構成員など

保存会には集落の87戸がすべて加入することになっている。田植踊は30名ほどいる。獅子舞の踊り手は10名ほどで、平均年齢は30歳前後である。現在は児童・生徒にも教えている。踊り手は、かつては長男に限った。

（３）用具・器具など

田植踊と三匹獅子舞の諸道具や衣装は、すべて比曽集会場に保管している。早乙女の　留袖も、保存会所有である。地震による被害はないが、避難しているため管理状態を心配している。

（４）公開や伝承のための施設や場所

地震による神社や民家の被害は少ないが、放射線量が高く、全村民が避難していて、地元での公開は当分できない。

（５）必要な原材料等の確保

必要なものは消耗品程度で、特にない。後継者は不足している。

（６）映像記録や写真等の被災状況

田植踊・三匹獅子舞ともに、公民館で保管している。個人持ちもある。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

三匹獅子舞の太鼓の革の張り替えが必要である。費用約8万円。

（８）地域や地域住民の被災状況

集落は阿武隈山地の山間のために、津波の被害はいなく、地震の被害は少ない。

原発事故で、比曽の住民のうち7割は、福島市、2割は、相馬市と二本松市の仮設住宅に避難している。

今後の展望
何より帰村を望んでいるが、放射線量が比較的高く、見通しは立っていない。しかし、震災後、村外で2回公開したように、継承の熱意はきわめて高い。
支援策の希望（内容や希望金額など）
田植踊の早乙女は留袖を着るために、踊ったあとの洗濯代に多額の費用がかかる(約10万円)。援助を希望している。
その他
保存会長は区長があたっている。

平成 23 年度「福島県域の無形民俗文化財被災調査」報告

13）飯舘村：２/２

調査日	平成24年3月9日（金）		
記入調査員氏名	懸田弘訓	同行調査員氏名	小島美子、岩崎真幸
調査地	福島県飯舘村		
無形民俗文化財	名称	綿津見神社・山津見神社・大雷神社の祭礼	
	所在地（被災前）	飯舘村草野字宮内・佐須字虎捕・飯樋字外田	
	伝承団体名	綿津見神社・山津見神社・大雷神社	
	聞き取り対象者	宮司	

震災による被害や影響

（１） 公開や実施状況

綿津見神社：例大祭は4月29日。3年ごとの神幸祭(大祭)は5月3・4日で、神輿渡御があり、宝財踊・手踊などの芸能も披露される。通例だと平成24年5月がその年にあたるが、現在のところ難しい。平成23年は4月29日に祈年祭の祭式だけを行なった。

山津見神社：「佐須の山の神さま」として県内でよく知られている。例祭は旧暦3月17日と旧暦10月15日から17日である。10月の祭りは相馬地方だけでなく中通り地方からも多数訪れ、出店も多く、ひときわ賑わう。平成23年10月は16日の1日だけとし、出店もなかったが、それでも参拝者は例年の半分は訪れた。

大雷神社：村の中心地に鎮座していて、3年ごとの大祭には宮仲と大火の神楽、上飯樋の宝財踊、さらに手踊などが行なわれる。平成23年は大祭の年にあたったが行わず、5月4日に東日本大震災復興祈念祭を行なった。

（２） 伝承団体の人数・構成員など

綿津見神社：氏子は500余戸。原発の事故後，約50人は集落内にいることがあるが、それ以外はすべて村外に避難している。

山津見神社：鎮座地の佐須の戸数は少ないが、当社の信者は相馬地方だけでなく、中通り地方北部にまで広がっている。

大雷神社：氏子は大久保・外内・上飯樋・飯樋町・八和木・前田の340戸

（３） 用具・器具など

綿津見神社では、川俣町飯野・福島市松川・伊達市・国見町・相馬市大野台の仮設住 宅に避難している。氏子など約600軒に、神社庁で準備した神棚用の小祠を配った。

（４）公開や伝承のための施設や場所

各神社の社殿、民家ともに地震による大きな被害はなかった。

（５）必要な原材料等の確保

必要なものは消耗品程度で、特にない。

（６）映像記録や写真等の被災状況

平成18年5月3、4日に、綿津見神社鎮座1200年記念して行った遷宮大祭のDVD2組を神社で保管している。今回の調査で借用しダビングをした。

（７）その他（公開や実施に必要な物）

平成23年、綿津見神社と大雷神社では祈年祭の祭式のみを行なった。

山津見神社の秋祭りは、1日だけ行った。

（８）地域や地域住民の被災状況

綿津見神社の社務所は平成3年、社殿は同18年の新築であるために、地震による被害は社務所に若干あった程度である。しかし、飯舘村は避難準備区域のため、一時帰宅はできるが、居住はできないために、役場は福島市飯野町に移した。住民は川俣町・福島市・伊達市・相馬市などの仮設住宅に避難している。

今後の展望

帰村できるかどうかにかかっている。除染を進めているが時間がかり、効果も心配している。

綿津見神社と大雷神社の大祭の見通しはない。山津見神社の参拝者は村外が多いだけに、旧に復する可能性は高い。

支援策の希望（内容や希望金額など）

特にない。村に戻ることが最大の願いである。

その他

飯舘村は避難準備区域のため、話者は家族とともに福島市に避難しているが、一時帰宅した折に聞き取りをした。